

東京外国語大学オープンアカデミー

高校生のための

グロ－バル

# 国際理解セミナー



2007年12月25日～27日

東京外国語大学 府中キャンパス 留学生日本語教育センターにて

参加した高校生が作った

## 報告書

高校生によるグローバルセミナー報告書編集委員会  
東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター

## 「<sup>グローバル</sup>高校生のための国際理解セミナー」を開催して

「やってよかった」。3日間のセミナーを終えての素直な気持ちです。

セミナーを企画する中でいちばんの気懸りだったのは、年の瀬の押し迫った時期、それもクリスマスに、若い高校生たちが参加してくれるだろうか、ということでした。実際のところ、11月の末、締め切りまであと数日という時点になっても申込者はわずか7名。「こりゃ中止するしかないかな」と一時は覚悟しました。

しかしその後数日間で申し込みが相次ぎ、最終的に申込者数が定員を超えてしまいました。そこで今度は参加者を選抜しなければならなくなりました。申込書に添付されていた参加の動機を読むとどれも熱意のこもった文章で、できれば全員に参加して欲しいと思ったのですが、「セミナーの質を確保するためには24名が限度です」との木下コーディネーターの言葉に従わざるをえませんでした。今回は残念ながら参加できなかった皆さん、来年度はぜひ参加して下さい。

セミナーが始まると、今度は別の心配に襲われました。レクチャーをお願いした本学の教員たちは高校生にも分かるように話してくれるだろうか。お互いに知らない高校生たちが集まってワークショップはうまくいくだろうか。重たい沈黙が続く、なんてことにならなければいいんだけど…。

でも杞憂でした。コーディネーターの木下さん、ファシリテーターの西さんをはじめ、支援室のスタッフ、大学生・留学生のスタッフ、そして講師役を務めた教員たちはいずれもそれぞれの持ち味を生かしながら、議論の材料ときっかけを提供してくれました。そして高校生たちはそれをしっかりと受け止め、自分たちの疑問や考えを率直に言葉に出して活発な議論を展開してくれたのです。

地球規模での一体化が進む現代世界において、さまざまな文化背景を持った人々がお互いに理解し合い平和を維持していくためにはどうしたらいいのか。3日間のセミナーを通じて、参加した高校生一人一人が、こうした大きな課題に正面から向き合い、お互いの議論を通じて自分の考えを深めていくのを傍から見ていて、僕はとても幸せな気持ちでした。

このセミナーを企画運営してくれたスタッフのみなさん、参加してくれた高校生のみなさん、本当にありがとうございました。

東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター センター長 高橋 正明



亀山郁夫学長を囲んで、参加者、スタッフが全員集合。最後列、向かって右から8人目が筆者（27日閉会式）

## 目 次

「高校生のための国際理解セミナー」を開催して	1
1 プログラム	3
2 ワークショップ&レクチャー「異文化理解とコミュニケーション」	4
3 ワークショップ&レクチャー「戦争と平和」	7
4 ワークショップ&レクチャー「多文化共生」	13
5 交流会	15
6 グループ討議&発表	16
7 講 評	18
8 参加者の感想	19
9 大学生スタッフ、留学生、支援室スタッフの感想	44
10 編集後記	50



# プログラム

1 日 目	25日(火)	13:00~13:30	開会式、オリエンテーション
		13:30~17:00	ワークショップ&レクチャー「異文化理解とコミュニケーション」 講師：岡田昭人（東京外国語大学外国語学部准教授） ファシリテーター：西あい（開発教育協会スタッフ）
		17:00~18:30	大学紹介、交流会（夕食）
		18:30~19:30	自由交流（希望者のみ）
2 日 目	26日(水)	09:00~12:30	ワークショップ&レクチャー「戦争と平和」 講師：西谷 修（東京外国語大学大学院地域文化研究科教授） ファシリテーター：木下理仁（東京外国語大学国際理解教育専門員）
		12:30~13:30	昼食、キャンパス・ツアー
		13:30~17:00	ワークショップ&レクチャー「多文化共生」 講師：塩原良和（東京外国語大学外国語学部准教授） ファシリテーター：西あい（開発教育協会スタッフ）
		17:00~17:30	グループ討議準備（グループ分け）
		17:30~18:30	大学生（留学生を含む）との交流会（夕食）
		18:30~19:30	自由交流（希望者のみ）
3 日 目	27日(木)	09:00~11:30	グループ討議・発表
		11:30~12:00	講評・修了証書授与式
		12:00	終了・解散
		13:00~15:00	セミナー報告書編集会議（任意参加）

## 講師等プロフィール（敬称略）

にしだに おさむ  
西谷 修

東京外国語大学 大学院地域文化研究科 教授

フランス現代思想の研究をベースに、戦争論、世界史論、生命論、ドグマ人類学などを現代の思想的課題として論じている。著書に『テロとの戦争』とは何か』（以文社）などがある。

おかだ あきと  
岡田昭人

東京外国語大学 外国語学部 地域・国際講座 人間・環境系列 准教授

オックスフォード大学教育学部大学院博士課程修了（DPhil）  
東京外国語大学短期交換留学生プログラム（ISEPTUFS）ダイレクター 専門：比較・国際教育学

しおばら よしかず  
塩原良和

東京外国語大学 外国語学部／多言語・多文化教育研究センター 准教授

オーストラリアの「多文化主義」を研究しながら、日本の「多文化共生」のあり方についても考えている社会学者。  
東京外国語大学では、学生ボランティア支援活動も担当している。

にし あい  
西 あい

（特活）開発教育協会 事務局長補佐、ファシリテーター

「開発」「人権」「環境」などをテーマに、小学生から大学生、シニアまで、それぞれの対象者に応じたワークショップ（参加型学習）の実践に取り組んでいる。1日目、2日目のワークショップを担当。

きのした よしひと  
木下理仁

東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター 国際理解教育専門員

小中学校で国際理解教育の実践に取り組む学生ボランティアをサポートしている。3日間の進行を担当。

## ワークショップ&レクチャー

### 「異文化理解とコミュニケーション」

#### ワークショップ

ファシリテーター：西 あい さん（開発教育協会）

3人一組になって、所々に置かれたある家族とその家族が所有する家具が写っている写真を1枚選び、「その家族にホームステイした」という設定で、①家族構成は？ ②どのように暮らしているか？ ③家族の幸せ・悩みは？ ④家族が大切にしているものは？ ⑤家族の将来の夢は？ ⑥その家族からあなたが学んだものは？ という質問に答えました。

私たちのグループはアフリカ系の一家の写真を選びました。私以外の2人はアメリカに年間留学した経験があつてとても積極的！話が弾みます。私たちの家族は家畜を飼い、農業で生計を立て電気などは無く、悩みは都会の様な文明的な生活に移行すべきか、子供たちは学校に行っていない（推定）、家族愛・家畜を大切にしている、現代の私たちとはかけ離れた生活をしている家族でした。

次に、全体を2グループに分けて各グループの家族紹介をしました。私たちのグループの他には、タイの家族、農耕を営むヨーロッパ系の家族、家具が豊富にあるブラジルの家族がありました。みんな10分程度の中で、その家族の暮らしぶりや心筋まで推測していて、すごいなあと思いました。

その4つの家族と日本の5つの家族の写真を見ながら、「この5つ家族を“豊かさ”という観点でランク付けすると？」というお題でランク付けをしました。私たちのグループでは、まず「豊かさって、色々あるよね。」という発言を受け、経済的・自然・教育・心の豊かさの4つに分けて考えました。経済的・教育の豊かさはともに1位から順に、日本、ブラジル、タイ、ヨーロッパ、アフリカになりました。自然の豊かさは順にヨーロッパ・アフリカ・タイ・ブラジル・日本になりました。次に、心の豊かさ。これは難題でした。初めは「経済的豊かさの逆じゃない？」という意見が出たのですが、「心の豊かさは家庭によって違う」という結論に達し、ブラジル・タイ・ヨーロッパ・アフリカが同率1位で、日本だけ写真の中の家族がバラバラに写っているという理由で、5位になりました。ここでも、学年など関係なく自分の思ったことや知識をどんどん言っている皆の姿が印象的でした。学校ではなかなか出来ない良いディスカッションができました。



その後、2グループの意見交換。もう一方のグループは豊かさを経済的豊かさと心の豊かさに分けて考えました。経済的豊かさは、私たちのグループと同じで、しかし心の豊かさは経済的豊かさを逆にしたもので、これは私たちのグループとの大きな違いでした。彼らの意見は、「日本は皆忙しくて、家族全員で何かする時間が少ないのに対し、大自然で暮らす家族は一家で農業を営んでいて、子供たちも学校に行っていないから家族で過ごす時間が多い=心が豊か」というものでした。互いの意見を交換し、自分とは違う意見を聞いてみんな「こんな考え方のあるんだあ」という感じでした。



次に、皆で“豊かさ”について話し合いました。まず、「自分が豊かだと思える人？」という問いに対し、全員が“Yes”と答えました。

豊かさとは…？

現在、豊かさを計る一番大きな指標は「経済」。他にも、自然、教育、治安、慣れ、心の豊かさ、信頼、自分らしくいられること、などという意見が出ました。みんな一人ひとりの“豊かさ”に対する考え方や指標が違っておもしろかったです。

次に、「もし生まれ変われるなら、どの家族に生まれ変わりたい？」という問いに対し、私のように自然に囲まれて暮らす家族を選ぶ人や、「今の生活は捨てられない」と、日本を選ぶ人も5～6人いました。

みんな今日初めて会った人ばかりなのに、あっという間に打ち解けてディスカッションでは、“豊かさ”という普段あまり話さないテーマに対しても自分の意見や考えをちゃんと言い合っていて、すごい刺激を受けました。

(須藤智子)



## レクチャー

講師：岡田昭人先生（東京外国語大学 外国語学部 地域・国際講座 人間・環境系列 准教授）

セミナー初めてのレクチャーでした。どんな内容なのかワクワク♪



### \*W曲線

W曲線とは海外に住んでいる間に起こる感情変化を“0”を普通、“1”を楽、“-1”を辛い状態として図にするとWの形を描くという心理学のお話。

今回のセミナーの参加者の中には留学やホームステイをしていた人や帰国子女の人など様々な形で海外に住んでいた人がいましたが、W曲線に納得する人もいれば逆にMを描いた人もいました。

### \*異文化適応力チェック

次に12問の心理テスト。

このテストでは自分の文化と異なる文化に接した時に自分がどのように反応するか調べることができます。もっともよいとされているのはお互いの文化を大切にしたい、認め合える『両文化共生型』なのですが、参加者の多くは両文化共生型だったようです。このような人が増えれば偏見や差別はなくなるのですが、世界中を見回してみると決してそうではありません。ある文化は「いい。」とか逆に「悪い。」といったことはもちろんなく、そのような考えを持ってしまうと共生はできません。もちろん他



の文化の慣習が自分にとって特異なことであったり、驚いて引いてしまうことはあって当然だと思います。しかしそれを「悪い。」とすることは、同時にその文化の中で生活してきた人を否定することと同じです。否定するのではなく認めるべきではないでしょうか。そして互いの文化のよいところを生かせれば、自分の中で異文化の共生は行われているのです。

文化というのはアメリカと日本といった国で置き換えられることが多々あると思いますが、例えば、同じクラスの友達と自分でも置き換えることができると思います。お互いのいいところを生かして認め合えたときいい友達関係を築けますが、逆の場合には仲良くなれません。これは万人が、人間関係を通じて知っていることです。

異文化理解という思わず世界規模と想像してしまいがちで、自分とは縁遠いものと感じられますが、このレクチャーを通じて異文化共生とはそうではなく、人同士がお互いを認め合うことから始まるのではないかと感じました。

(小島 明)

## 「戦争と平和」

### ワークショップ

ファシリテーター：木下理仁さん（東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター 国際理解教育専門員）

まず、みんなが戦争という言葉で思い浮かぶことを言っていました。「怖い」「武器」「イラク戦争の映像」など、様々ありましたが、それぞれマイナスイメージを持っていることは共通でした。次に世界地図を元にした6つの戦争に関する図を見て比較し、考えました。

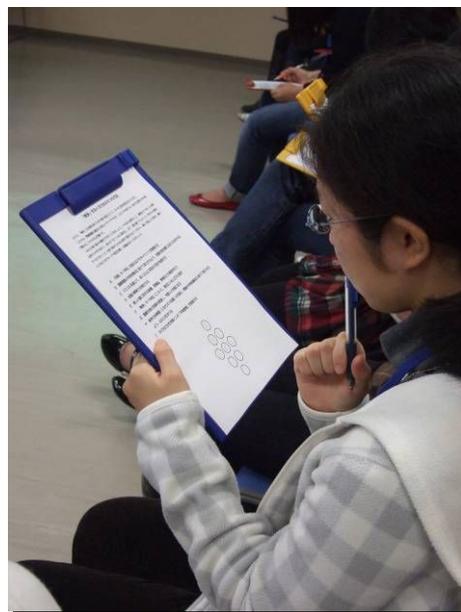
その後、イラク戦争のビデオを見ました。それはイラク戦争が起きる直前、起きているとき、直後の映像でした。アメリカ大統領ブッシュ氏の演説、国連での話し合い、米軍がイラクの町に爆弾を落としている様子、病院で赤ちゃんが怪我をして泣いている映像、イラクのフセイン大統領の像が壊されている映像等々、様々でした。見終わり、みんなそれぞれ自分の気持ちに近いものに丸をするという形で

16個の文字の中で3つに丸をする、合うものがなかったら自分で書くという形で自分の気持ちを表し、グループを作って、その気持ちを話し、

どうしてそのような気持ちになったのか、話し合いました。みんなマイナスイメージのものに丸をつけていて、「おもしろい」「うれしい」「自分には関係ない」「わくわくする」に丸をつけている人はいなかったと思います。しかし、この選択肢があるということは、そのように感じる人も世の中にはいるということだろうか…と私は考えていました。また、印象に残っているのは、戦争前の国連での話し合いでヨーロッパのいくつかの国が反対したし、国連の調査もまだ途中であったのに、アメリカがイラクに攻撃したことはおかしい、対話で解決して欲しかったという意見が多く出ていたことです。

次に、「戦争をなくすための9つの方法」として書かれているA～Iを必要な順番に、ダイヤモンド型に1人ずつ書いていきました。その後3人1組のグループを何度か作り話し合い、グループの結果や個人的に考えたことなどを発表しました。ここでは、Cが一番上にくる人、Eの人、Fの人、Iの人…様々でした。

この話し合いでは、たくさんの発見がありました。私がグループの話し合いで一番印象に残っているのはI『子どもたちを対象とした「平和教育」を推進する』を一番上にする考え方で、やはり、戦争を未然に防ぐには、これから育っていく子どもたちへの教育ではないか、そして、戦争しか知らない世界の子供たちにも自分の周りにもいる戦争を「関係ない」と思っている子たちにも、戦争について平和について考えてもらいたいという意見から、国連が規定をして、「全世界共通の平和教育」が行われるのが最も良いのではないかという結論が出たことです。また、発表ではF



『「戦争」や「平和」について、身近にいる人たちと話す』を一番上にしたグループの印象が強く残っています。このグループは、まず身近な人と戦争や平和について話していくことによって自分の意見を



しっかりと持ってから他の様々な活動をしていくのが良いのではないかという意見でした。その他にも、D『自国の軍事力を強化する』を一番下にする人が多い中、そうではない人の意見、また、「戦争がないことが平和とはいえない」という意見…様々たくさんの意見をみんなで話し合い、それぞれに発見があり、充実したワークショップでした。

(野本奈津美)

## レクチャー

講師：西谷 修先生（東京外国語大学 大学院地域文化研究科 教授）

このレクチャーの前に行ったワークショップで私達が知らない、いや目を背けてきた事実を目の当たりにしたような気がする。重々しい雰囲気の中、「戦争と平和」のレクチャーを担当して下さった西谷 修先生のレクチャーが始まった。西谷先生はフランス文学を専攻しており、そこから戦争を研究しているようだ。

戦争とは？

戦争とは、相手がいないとできないケンカのように「関係」がないと起こらない。ただ、ケンカとは違い、人と人がやるのではなく国と国がやるということだ。人は国に動員されるだけ。

第一次・第二次世界大戦（とは言っても便宜上だけ）そして世界大戦の凍結されていた時に起こった冷戦を通じて、「戦争は行うべきではない」となったが、2001年アメリカで起こった「同時多発テロ」によりアメリカは「戦争は行うべき」となった。それは、世界は文明秩序（アメリカ）とそれ以外（テロリスト）という思想からきたものさそうだ。そこにはアメリカが世界のリーダーという考えが伺われる。ただ、必ずしもテロリスト＝国ではないらしい。テロリストとは冷戦（世界大戦凍結）に変わる架空のものであるという。

今の戦争は今までと違い「負けない国」が戦争を起こすのだ。たとえ、やりたくない国（人）がいたとしてもだ。「負けない国」とは圧倒的な武力を持っている国である。自国は無傷のまま、味方の被害を少なくして相手に負けを言わせる。すなわち、圧倒的な武力を用いない国は戦争ができないのだ。

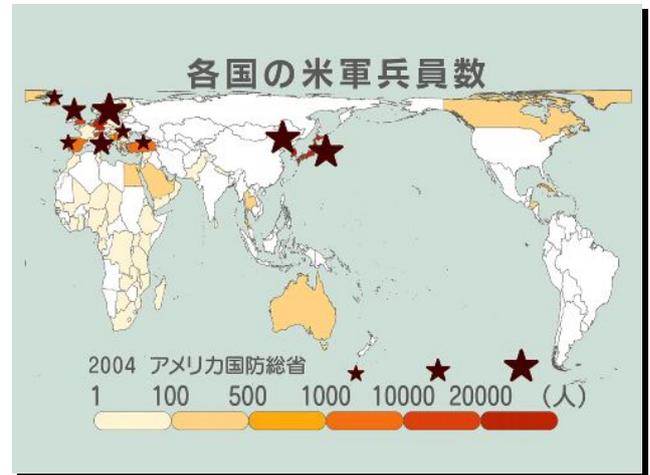
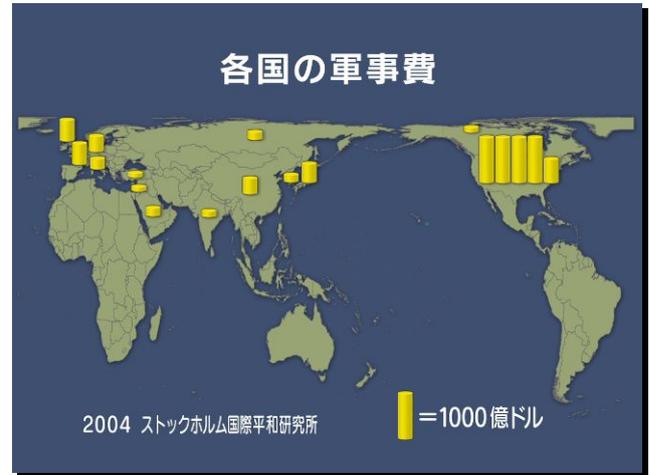
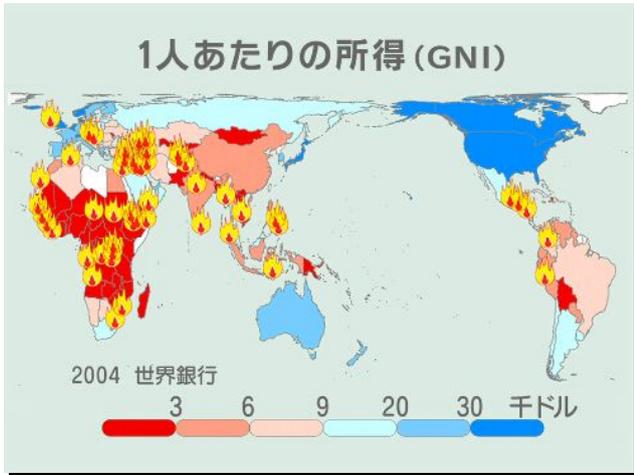
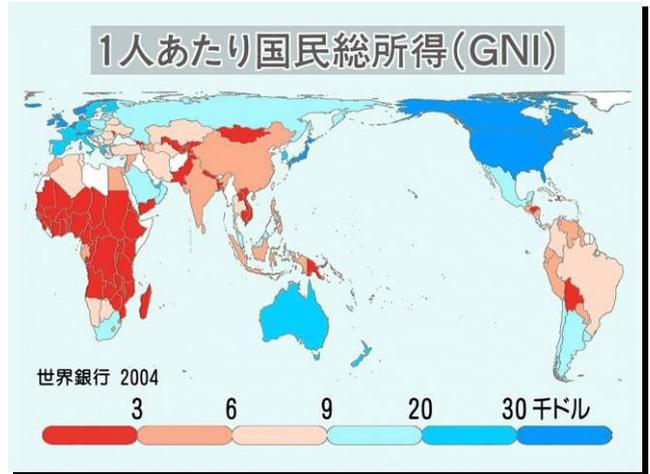
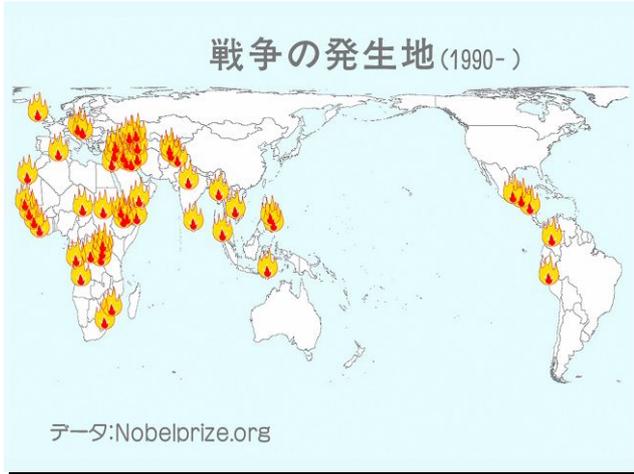
また「負けない国」はメディアも操作する。メディアが大きくなればなるほど自由な報道はできなくなってしまう。それだけ、社会に与える影響は大きいのだ。だから、人は無知でなくても真実を知らない。メディアで流れる煙幕のような大々的なイメージで真実を隠されているのだ。ある意味、自由と思っている国には自由はないのだろう。

（思ったこと）

戦争をやれば、問題は解決できるとは思いません。武力には武力でしか帰ってこないし、まして、武力の上に平和は成り立たない。そんな世界は本当の平和ではないと思う。人が人を殺すのはいけないとなっているのに、国が人を殺してもいいのか？それを認めている世界に平和訪れない。平和とは人それぞれ違うけれど、少なくとも武力の上に成り立つものではないということを世界中の人が自覚して欲しいと思いました。

（秋山未希）





※いずれも、NHK教育テレビ『地球データマップ』のウェブサイトより

わたしの気持ちは・・・

おどろいた	おもしろい	かわいそう	くだらない
腹が立つ	わけが わからない	しかたがない	心配だ
自分には 関係ない	わくわくする	ずるい	悲しい
こわい	くやしい	うれしい	

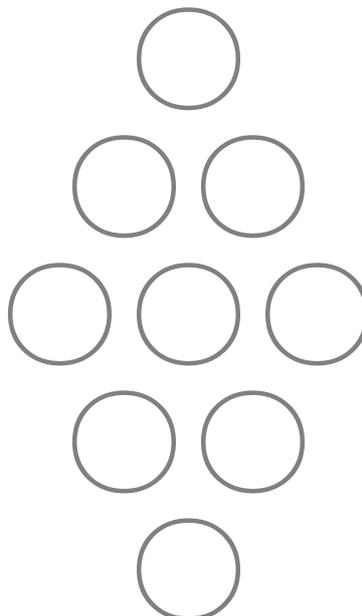
## 「戦争」をなくすための9つの方法

以下に、「戦争」を未然に防ぐための取り組みとして、9つの方法が記されています。

これらは、問題認識も観点も方法もバラバラですが、しかしその多くは、私たちが何らかの形で関わることのできる行動です。

これらの取り組みの順位づけをしてみましょう。いちばん必要なこと、最初にすべきことを最上段の○の中に記入し、次にすべきことを2段目に、以下、最も遅くてよいこと（あるいは最もすべきでないこと）を最下段の○の中に記号で書き入れてください。個人で記入した後で、隣の人とあるいはグループで意見交換して結論を出してみましょう。

- A 「反戦」や「平和」を訴えるデモやイベントを実施する
- B 国際問題の平和的解決に向けて努力するよう、自国の政治家にはたらきかける
- C マスコミを通じて、多くの人に平和の大切さを訴える
- D 自国の軍事力を強化する
- E 貧しい国に対する食糧、医薬品、教育などの援助を行う
- F 「戦争」や「平和」について、身近にいる人たちと話す
- G 国際交流の活動を推進し、外国人と友達になる
- H 紛争の当事国（となりそうな国）の元首に、問題の平和的解決に向けて努力するよう、はたらきかける
- I 子どもたちを対象とした「平和教育」を推進する

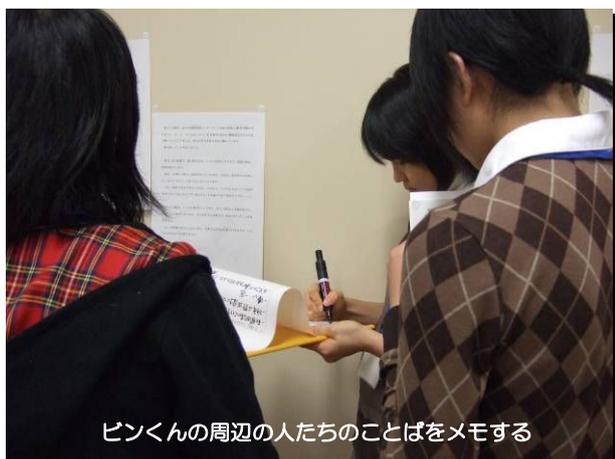


## 「多文化共生」

### ワークショップ

ファシリテーター：西 あい さん（開発教育協会）

私たちはビン君の友達という設定で、ビン君の両親や担任の先生に最近のビン君の様子について尋ねた。



ビン君の両親はベトナム政府により財産を奪われ、日本に亡命し、ビン君と弟を生んだ。両親は英語と日本語を学んだがあまりうまくは話せない。ビン君は日本で生まれたので、日本語しか話せない。家庭でのコミュニケーションがうまくできないのだ。弟が弁当のベトナム料理がきっかけでいじめを受けている、野球を教えてくれた大好きなところがぐれてしまった、お父さんが今の日本での仕事に誇りを持っていない、自分が新聞配達をしても家計が苦しい、ずっと続けたい野球ができない、自分が日本人なのかベトナム人なのかわからない…。様々な問題に苦しむビン君はとうとう学校へ行けなくなってしまった。



友人である私たちに何が出来るか…。ビン君の悩みを何から解決したらいいかを3～4人のグループになって考えた。「家族とのコミュニケーション」「両親と学校とのコミュニケーション」「近所の人とのコミュニケーション」「ビン君のアイデンティティ」「ぐれてしまったところ」「いじめを受けている弟」「仕事で悩むお父さん」などの9項目について各グループで話し合い、発表した。

「家族に悩みを伝えられないのは辛い。これが先決だ。」「言葉の壁を考えると近所の人を頼ってもいいのでは。」「ビン君のアイデンティティをしっかりと持たせてあげたい。」「アイデンティティはビン君が考え出すもの。他の問題が解決すれば自身で見出せる。」と、同じ切り口でも異なった意見が出た。「お父さんがもっとしっかりするべき。」という意見も出され、確かにとうなずく姿が見られた。

ワークショップを通して、多文化共生の難しさを知った。どの問題も真っ先に解決したいが自分ができるものには限界がある。ビン君がどんな生き方をしたいかはビン君自身が決めることで、誰も代わりにはなれない。でも、大切なのは相手と共に考えていくことだと感じた。共に考え、対話していくこと。それは友人の立場である自分はもちろん、ビン君の周囲の人の協力が不可欠だ。



日本の外国人の人口はまだ少ないが、グローバル化が進む今、多文化共生を一人一人が考えなければならぬのだと思った。

(松島周子)

## レクチャー

講師：塩原良和先生（東京外国語大学 外国語学部／多言語・多文化教育研究センター 准教授）

2日目の、そしてセミナー最後となるレクチャーは、「多文化共生」をテーマとした、塩原先生の講義でした。まず、最初に、『内なる国際化』について、1つの国家の中で「国民」と呼ばれる“国籍”を持っている人々と、「住（市）民」と呼ばれる“国籍”を持っていない人々との間でおこる、多文化・多言語における問題点について、お話されました。



「国民」と「住（市）民」、つまり、日本人と外国人が同じ社会に生きていく為に、最近、盛んに用いられている「多文化共生」について、それがどのようなものかお話されました。

まず、「共生」していくうえで、外国人に「親切」にしたり、「優しく」したり、「寛容」にすることが、良くあげられますが、その中で「寛容」というキーワードに絞って、お話されました。

「寛容」とは、“人を許し、良く受け入れること”の意味を持ち、一見、聞こえは良い風にとられがちです。しかし、その言葉の意味を突き詰めて考えていくと、“強者”（＝日本人）、“弱者”（＝外国人）の構図が出来あがってしまうことを、ユーモラスなコトを交えて、これこそが、寛容の真意なのだ、と、お話されました。もちろん、その“寛容にする”行為や言動だけでは、限界があり、ゆえに、対等に接することが「共生」につながるのだと、お話されました。

また、『分かり合う・理解しあうことの難しさ』については、『他人と100%分かり合おう』とすることは、裏を返せば、「他人を100%コントロール（支配）したい」という考え方と結びつき、危険性があるため、そうならない為に、どうすれば良いか、例を2つ挙げられました。

まず、1つ目は、「ケンカをするほど仲が良い」と言われるように、『対話』して、双方の意見が、ぶつかり合う中で、分かりあおうとすることと、2つ目に、「ギャップ越しのコミュニケーション」を挙げられ、反対側にいる意見の持ち主と、『対話』することで、相手を理解することができていくのだと、お話されました。だから、お互いを理解することを諦めてはいけなく、他人を1%でも多く分かり合おうとすることこそが、「異文化理解」「多文化共生」の上で最も重要なのだと、お話されました。

最後に、「勉強」と“学問”について、「勉強」とは、決まりきっていること・定義（証明）されていることを学ぶことで、“学問”とは、答えを自分で作り出すもので、その中で特に重要なのが、相手の言ったことを理解し、自分の意見を述べる「批判精神」が、「異文化理解」や「多文化共生」の面においても言えることであると、熱く語っておられました。しかしながら、相手を傷つけるためだけにある「非難・中傷」とは、混同しないようにしなければいけないと、語っておられました。

とても、ユーモラスな講義の進め方で、面白く、かつ、深く考えさせられるレクチャーでした。

(下田宣代)

## 交流会

1日のプログラム終了後、セミナー参加者全員で夕食を食べながら自由にお話をする交流会も行われました。



交流会は、各テーブルに6人程の高校生と、大学生、先生方で4つのテーブルに分かれて行いました。大学生や先生方はそれぞれのテーブルをまわって下さって、高校生みんなとお話をして下さいました。ワークショップとレクチャーだけではおさまりきらなかった問題を引き続き話し合ったり、レクチャーの内容を更に深く先生とお話したり、普段ほとんど話す機会のない大学の先生、大学生の方々に受験のアドバイス、大学生活のようなお話を聞かせていただけるのは楽しくて為になりました。高校生側も積極的に質問やお話をして、年齢や住んでいる地域を越えていろいろな情報の交換をしました。



2日目の交流会には、中国の留学生の冬梅（トウバイ）さんと、モンゴルの留学生のチョコさんも交流会に参加して下さいました。チョコさんは民族衣装で登場し、馬頭琴を演奏して下さいました。初めて耳にする馬頭琴の音色はとても優しく澄んでいて、聞き入ってしまいました。冬梅さんはとっても美しい日本語で自己紹介をして下さり、驚きました。

私は冬梅さんとは少ししかお話できませんでしたが、短い時間でも日本でのバイトのこと、友達のこと、受験のことなど多くの面白いお話を聞かせて下さいました。

チョコさんとはたくさんお話させていただきました。モンゴルの生活や、日本とモンゴルの違い、お笑いのことなどの興味深いお話をして下さいました。

私にとって全てのお話が始めて知る世界で、このような交流会は本当に貴重な経験となりました。ワークショップで一度も同じグループにならなかった高校生とも交流会のおかげで友達になって、楽しさいっぱいの交流会になりました。

(伊藤万利恵)



左から、周さん、チョコさん、冬梅さん

## グループ討議・発表

教室にあるボードにあったたくさんの言葉は、私たちセミナー生が1日目から書き足していったものでした。その一つ一つは、もともと興味があったことやワークショップ・レクチャーを終えて感じたことなど、それぞれが「仲間と話してみたい」と思ったことです。「国歌」「差別」「日本のアジアにおける役割」のように、挙げられたキーワードは様々でした。その中から、投票の結果選ばれたのは「経済発展・豊かさ」「宗教」「戦争と平和」「多文化共生」についての4つでした。各グループの話し合いは約90分。どのグループも次々と意見を出していき、時間はあっという間に過ぎていったようでした。

各グループは図式や内省といったいろいろな方法で議論をめぐらせました。例えば「多文化共生」グループでは、まずブレインストーミングで個人のイメージや考えを自由に挙げていきました。それはキーワードも実体験も含まれます。さらに考えを深めていくために、事例研究(ケーススタディー)をとりました。挙げられた体験の中から、上手く多文化共生ができた例とできなかった例を選び、見つめたり比較したりすることで一体何が重要なのかをじっくり考えて一時の結論を出しました。共生には「対等・対話」が必要だということです。でも、ファシリテーターの言葉をきっかけに、その結論をもう一度検証してみることにしました。性格が合わないクラスメイトとどう接するかという、自分により身近な例を考えたのです。するとさっき出した結論が非現実的な理想論であるということが浮き彫りになってしまったのです。それをふまえた上で、「共生は難しいものだけど努力していこう」という最終的な結論に辿り着きました。このような試行錯誤の末にまとめたものを発表して、お互いの視点を共有しました。

「豊かさ」グループは、発展途上国と先進国が両方のデメリットを考え、メリットを学ぼうという課題を見つけました。「宗教」グループは、それぞれの宗教を「自分と異なるもの」して見るのではなく、同じ「何かを信じるもの」として見て和解しようと提案しました。「戦争と平和」グループは、戦争と平和の関係を整理し、安全が保障されている世界をつくることの難しさを感じました。



グループ討議では、同じことに興味を持つ仲間と少人数で意見交換でき、話し合うことによって生まれる更なる疑問に取り組んでいくという大切さを学ぶこともできました。お互いの意見によって引き出される意見がある、という発見をできたことも貴重な経験だったと感じます。私たちはこのグループ討議で大きく成長しました。この先、出した結論についてもっと詳しく考えたり、実行したいという目標も持つことができました。

(平田優衣)

発表に使ったポスター（一部）

私たちの考える豊かさ

解決策

- 政府の改善 → 教育制度の確立  
↑  
人権の保障
- 国連の働きかけ  
先進国と途上国の立場と対等にする  
先進国の援助拡大 → 有効な活用
- (伝統)
- 環境に対する <sup>取り組み</sup>
- 企業の具体 (環境面, 労働)

課題

又方のデメリットを理解し  
メリットを学ぶ。

## 戦争と平和

メンバー  
せいこ くす  
もも じん  
ゆうき しゅう  
あゆみ  
さき

① 何が原因か?

- ① 軍事産業の促進のため  
(主にアメリカ、ドイツ、フランス、ロシア、イギリス)  
・ 政治とつながっている
- ② 権威を示す  
・ 産業や経済にも強国が有利になる  
・ 天然資源を奪うため
- ③ 宗教・民族の争い

## どのように「宗教」と 関わって行くか?

宗教とは?

→ 信仰する物が同じ人の集まり  
信仰する為には様々な ~~規則~~ 規律  
が生まれた。  
(規律に ~~重んじ~~ 重んじ)

宗教対立はそれぞれの宗教の利害  
の対立によって起きた物

宗教を超えて共生するためには  
→ 宗教という肩書きにとらわれない  
信じる物を自覚し「宗教」という枠  
より信仰という枠でとらえる  
お互いの信仰を尊重する。

そこから得た大事だと思ったこと

## 対等・対話

BUT!

私たちの身近な人間関係  
にふりかかってみると...

- ぶつかっていく派
- がまん派
- 避ける派
- とりつくろう派
- たのむ派
- 歩みよらう派

あ  
ず

## 講 評

「戦争と平和」「多文化共生」「宗教」「豊かさ」の四グループに分かれ討議を行い、出された結論の講評が行われた。

「戦争と平和」グループは戦争の起こる背景を追究した。戦争の起こる原因に「軍事産業の促進」「宗教・民族争い」を挙げ、「政治と結びついてしまっているのを断ち切る」「他の宗教も認め、対話して解決する」という解決案を考え出した。事象の因果関係を模索した点が評価された。

「多文化共生」グループは各人の体験から内省的に事例研究（ケース・スタディ）を行った。自分たちの今までの帰国生・外国人の同級生との多文化共生成功例・失敗例を上げ、「多文化共生は難しい。一人ひとりが対話していく姿勢が大事。」とまとめた。「自分たちの出した結論が再び疑問に戻す。このサイクルが大切。」と教授は評価された。

「宗教」グループは、外国人の友人との「信じる」ことに関する体験から内省的に話し合った。また世界史で得た知識を使い、「宗教のルーツが同じなのに争いが起こるのは信仰するものが違うから。でも信仰する枠では誰もが同じ。宗教という肩書きに囚われすぎているのでは。」と考え、「お互いの『信仰』を尊重することが大切。」と結論。「少し理想論に走りすぎ。もっと現実をみて。」と反省点を教授は話された。

「豊かさ」グループは初日のワークショップで学んだことを活かし、「豊かさとは何か」から考えた。経済だけではなく、人の精神や人権・教育、さらに政治・情報の入手のしやすさなど、多くの視点から「豊かさ」を捉えた。また途上国の長所が先進国の短所を、先進国の長所が途上国の短所を互いに補っていることに気づき、「双方のメリットを学ぶのが今後の課題。」と結論を出した。政府の改善、教育制度の確立だけではなく、伝統・環境に対する教育も解決策に挙げた。「豊かさを考える過程を図式化したのが分かりやすい。」と評価を受けた。

現在世界で起こっている様々な問題について話し合うのは、友人同士でもなかなかできるものではない。しかしグローバルセミナーには同じ「国際」に興味を持った高校生が全国から集まる。日頃から疑問に思っていたことを本気で話し合うことができる。これがグループ討議の魅力だ。

(松島周子)

「多文化共生」のグループは、ケーススタディと内省で討議を進め、実体験などを紹介しながら発表しました。塩原准教授には、出した結論をもう一度討議しなおしていた唯一のグループだったと褒めていただきました。

(平田優衣)

講評を聞いてもの見方が変わりました。

一度出た答えをもう一度振り返ってみて、それが自分に実行できるかどうかを考えてみる。それが出来ないならばそれは完全な答えではないので、どうすれば実行できるかをまた考えてみる。という過程が大切だと思いました。完全な答えを出すことは難しいけれど、過程で得られるものは必ずあるはずで。そしてその得られたことを自分が実行して行きたいと思いました。

(小島 明)

# 参加者の感想



多言語・多文化教育研究センターの高橋正明先生から修了証書の授与

秋山 未希	東京都	高校1年生	中村 愛弓	静岡県	高校1年生
位坂日香里	東京都	高校2年生	中村 桂子	埼玉県	高校1年生
一宮 恵	神奈川県	高校2年生	野間 千晴	東京都	高校2年生
伊藤万利恵	東京都	高校2年生	野本奈津美	東京都	高校3年生
伊藤 優希	神奈川県	高校2年生	長谷川沙季	神奈川県	高校2年生
河原 由佳	東京都	高校2年生	平田 優衣	神奈川県	高校2年生
小島 明	東京都	高校2年生	昼間 彩	埼玉県	高校1年生
下田 宣代	熊本県	高校2年生	深澤 星子	東京都	高校2年生
須藤 智子	神奈川県	高校2年生	堀川 梨紗	東京都	高校3年生
関根久理守	東京都	高校2年生	本田貴和子	東京都	高校3年生
竹中 千紗	徳島県	高校1年生	松島 周子	埼玉県	高校1年生
中曽根桃子	栃木県	高校2年生	渡邊 倫	宮城県	高校3年生

# 高校生のための国際理解セミナーに参加して

秋山未希

## 一日目

私自身、このようなイベントに参加したことがなかったので、三日間みんなの中でやっていけるかとかなど行くまで不安がいっぱいでした。受付を通過して緊張の中部屋に入りましたが、話してみるとすんなり会話に入れて、それまでの不安が吹き飛びました。

みんなの話を聞いて、海外経験がある人が多いということに驚きました。それと同時に自分の世界が狭かったということ。よく言う「井の中の蛙、大海を知らず」ってやつです。まあ、確かに「国際」ってありますから、そういう人が多く集まるのはなんら不思議ではないだろうけれど……。妙に新鮮感じました。

## 二日目

一日目に比べ、みんなの雰囲気も和やかになりたくさんの発言が出た、また一日だったこともあって特に実のある二日目でした。

午前中の「戦争と平和」は、今まで学校などの教科書上など表面的なことしか知らなかったことを実感しました。午後の「多文化共生」は、私の中では一番興味をひいたものでした。最初「多文化共生って何？」というものでしたが、ワークショップやわかりやすいレクチャーを通じて形としては理解できました。ただこの話題だけではないけれど、どれも深いと思った。答えが一つと言う今までの問題とは違い、本当の答えなんてない、むしろこれから答えを見つけていくために努力しなければいけない話題ばかりでした。

交流会では、今回は留学生の方もいてとても楽しかったです。その時、モンゴルから留学生が民族楽器の馬頭琴(モリンホール)という楽器を弾いたのですが、形や弾き方がチェロに似ていて弾いてみたいになりました。料理もおいしくていっぱい食べましたよ♪(意外に皆さん食べるんですね……)

## 三日目

この日はテーマ毎のグループ討議と発表でした。たくさん意見が飛び交う中、私はその中には入る勇気も意見もなかったので、傍からただ聞いているだけのようでなんか悔しかったです。けど、たくさん意見に触れられてよかったです。

## 最後に

この三日間はとても充実した三日間でした。何より一つの問題に対して、たくさん考え方に触れることができたし、苦手だった自分の「内」にあるものを声に出して相手に伝えることの難しさを改めて実感しました。また、自分の無知さも痛感し、自分の周りだけではなくもっと広く視野を持とうと思います。

## 東京外国語大学 高校生のための国際理解セミナー に参加して

位坂日香里

私は、8ヶ月の間アメリカのテキサスに交換留学をしていました。たった8ヶ月の間に私は色々な経験をしました。それは、全てが良かったわけではなく、時には最悪な状況に追い込まれることもありました。そんな中で、わたしのいた Brownsville という町はメキシコとの国境の境にあり、人口の95%がメキシコ人（ヒスパニック）というアメリカの中でも外れの町でした。多くの人が英語を話すことが出来ず、コミュニケーションをとることすら難しいところでした。そこで私は人種差別というものを体験し、民族や宗教の壁にも衝突しました。

わたしはこのセミナーで、これから先自分が何を学んでいきたいのかを発見できるような気がしていました。

しかし、私はこのセミナーに参加したことで学びたいことを発見しすぎてしまいました。自分の留学の経験はとても貴重なものですが、大きな世界の中のたった一つの町のことでしかないのです。それはアメリカの全てどころか、テキサスの全てにすらならないのです。このセミナーでは自分に身近なことを取り上げました。身近なことなのに、私には知らないことだらけでした。もっと知りたくなることばかりでした。私は、ベトナム難民のことをよく知りません。アフリカの人々の生活がどんなものか知りません。同時に、自分の留学していた町のこともきっと多くは知っていません。自分の基礎知識のなさもすごく実感する3日間となったし、発言する時にまとまりなく話してしまうことも思い知りました。

私は人種差別を体験しましたが、人種差別のことを勉強するだけでも相当な時間がかかります。宗教について3日目に話し合いましたが、「宗教について」といってもそんなに簡単なものなわけではなく、いろいろなことが関連してきて頭がごちゃごちゃになりました。

学びたいことも知りたいこともいっぱいあるということが分かり、私は最も学びたいことがなんなのかを見失いました。関わってみたいことも、行ってみたい所も、やってみたいこともいきなり増えてしまいました。全てに興味を湧いてしまったのです。せつかく興味を湧いたのだから、出来る限り携わってみようと思います。ボランティアにも参加してみようと思っているし、基礎知識も増やしています。行ける所には、行ってみようと思うし、関われることは関わってみます。そしたら、一番学びたいことが見えてくるような気がします。全てを学ぶことや、全てを理解することは無理なのは分っているのに、全てを理解したいと思ってしまいました。たった3日間のセミナーで物の見方が変わりました。

セミナーを通じて知り合うことの出来た友達の発言力にも圧倒されました。自分の意見を自信を持って相手に伝えられるのは凄いと思いました。自分の足りない所をたくさん発見したから、改善していこうと思います。国語力も必要だと感じました。自分には足りない所だらけで本当に嫌になったけど、自分とは全く違う同世代の人たちの意見を聞くことが出来たり、大学の教授の授業を受けることが出来たりありがたい事ばかりでした。

この経験を生かして、自分の出来ることを精一杯やっつけようと思います。

今を大切に、一瞬一瞬に悔いの残らないようにしっかり生きて行こうと思います。

## 高校生のための国際理解セミナーを終えて

一宮 恵

今回のセミナーは講義の内容「異文化理解とコミュニケーション」「戦争と平和」「多文化共生」に興味を持ち参加しました。また国際的な問題に興味を持っていて、中高生自身が企画運営を行うボランティア活動に携わっているのも、このセミナーでも同じ年代の人たちと意見を交換できたらと思いました。セミナー当日は、新しい視点を得ようと期待しながら会場へ向かいました。

今回のセミナーの中で私が特に深く考えたのは「豊かさ」についてでした。セミナーの始まりから豊かさを取り上げられ、最後のグループ討議でもテーマとなっていたからです。

最初のアクティビティで写真を見たときには、開発途上国の人同士のつながりの深さと経済的貧しさ、そして他方での日本の経済的潤いと人間関係の希薄化について考えさせられました。どちらが幸せなのか、何を豊かとするのか、様々な意見が出る中で自分に置き換え、私自身にとっての豊かさは何かを考えました。

最後のグループ討議では私達の班は「近代化と豊かさ」について話し合いました。経済的な豊かさと精神的な豊かさを考える中で、先進国と途上国の対比に至りました。経済が発展する過程で失われてゆくもの、豊かさにおける視点の違いなどを考えました。

この討議は一人ひとりの意識が高く有意義な話し合いでしたが、課題も多くあったと思います。最初の数十分間は何について話すのか明確でなく、統一性のない話し合いになってしまったこと。ときおり討議の趣旨がずれてしまったこと。時間の割り振りが上手くいかず、ギリギリまで準備をしたこと。テーマが深いので、よく話しあうことと時間内に終わらせることのバランスが難しい討議でした。また時間が限られていたこともありますが、結果として理想論で終わってしまったことは後悔しています。ボランティアをしていて行動に移すことの難しさや大切さを痛感することが多いので、私達にできる具体的な行動や方法論、この年代だからこそ出来ることをあのメンバーで話し合えたらより良かったと思います。

このセミナーに参加して考えたことがたくさんありました。これからはこの経験を様々な場面で生かしていこうと思います。まずは今年3月に行うユース国際ボランティアフォーラムで同じ世代にボランティアの楽しさを広める活動をする上で、今回学んだ国際理解についての知識や新しい視点を生かしていけたらと思っています。同じ世代の人たちと討議をした経験はフォーラムの中でも行うディスカッションで生きてくると思います。また今回考えた「豊かさ」についてもこれから個人的に考えを深めていきたいと考えています。

このセミナーで同じ世代の意識の高い人たちと出会えたこと、その中で様々な価値観や考え方に触れられたことはとても良い経験でした。前々からこのセミナーに向けて準備して下さったスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

## セミナー感想文

伊藤万利恵

私はこのセミナーに参加して、同世代の高校生でも自分とは全く違った考えを持っているということだけでなく、今まで自分自身も知らなかった自分を知るきっかけをいただきました。

セミナーへの参加が決まった時、私は自分が海外経験者ではないことを特に何とも思っていませんでした。実際に参加してみて、同じ年代なのにほぼ全員が海外経験者であったことに驚きとショックを受けました。まわりの皆が積極的に自分の意見や経験を述べるのを見ても、自分はできないと諦めていました。しかし家に帰って1日を振り返った時に、私は自分に海外経験が無いことを言い訳に、人と違う意見を持っている自分を隠していようとしたことに気が付き更にショックを受けました。木下さんが「答えはない。」とおっしゃっていたのを思い出して、人と意見が違うのは当たり前だし、日本を出たことのない自分だからこそその考え方だってあるかもしれないと思うことにしてみました。

2日目の「戦争と平和」、「多文化共生」というテーマについて私は普段友達と本気で話し合ったことはありませんでした。積極的に意見を言おうと決めたものの、自分がこのテーマに対してどんな考えを持っているのかがよく分かりませんでした。そんな中、グループに分かれて友達の意見を聞いて、共感できる点やできない点が次々と浮かんでくるので、それをそのまま口に出してみました。言葉にすることで皆に自分の意見が伝わって、更に私の意見に対しても皆が議論してくれるので、グループ内が様々な意見で溢れました。そこで私は初めて、1つの問題にも一人ひとり違う考えがあることの面白さを知りました。そしてだから国際理解とは難しいことなのだと思います。

私はこのセミナーの「国際理解」というとても大きなテーマの中で、まず小さな自分の中にも知り得ないほど色々な考えがあることを知り、一緒にこのテーマに沿って考えてきた皆の考えのほんの一部を知りました。これでは到底世界規模になんて及びません。でもこれは私の中ではとても大きな変化となりました。

これからもたくさんの人に出会い、あらゆる考え方に出会おうと思います。その時に今回のセミナーでの経験を応用すれば、少しは国際理解にもつながられるかもしれません。そんな応用ができる自分になるとを期待しています。

## 感想

伊藤優希

今回セミナーを受けて思ったことは、私達は無意識のうちにメディアやトップの人達によって決められたり、ずっと耳にしていることに対して固執しているということです。

特に戦争の話ではテロリストという言葉が普段から耳にし始めて、その不安を取り除くための戦争、という図式が成り立っていれば戦争が始まってしまうのはしょうがないことなのかもしれない、と思っていたこともありました。

しかし、それは戦争をじかに経験していないから言えることであり、この考えの下で今の一部の戦争は行われているということを知りました。

そして問題の解決の理想としては戦争防止も多文化共生もお互いを理解し分かりあい対等になるということでした。これは理想論であって、すぐに実現できるものではありませんがこの理想を目指していくために現実を見据えながら、どうやって解決していくのかをもっと話し合ってみたいと思いました。

これからやっていきたいことは、このセミナーでしたような議論での意見に説得力を持たせるためや、より相手を理解する為にも、もっと日本を含めた国際社会の動きに注目していきたいと思います。また、なんとなく「国際系」というのに興味を持っていて大学に入って何を勉強していきたいのか漠然としていた中でセミナーを受けて自分が大学を含めた将来で取り組んでいきたいものが見つかったと思います。

## 国際理解セミナーに参加して

河原由佳

東京外国語大学のオープンキャンパスでこの国際理解セミナーを知りました。当初から国際関係に興味があり、是非参加したいと思い応募しました。

残念ながら初日は体調不良のため欠席してしまいましたが、二日目・三日目は幸い出席できました。途中からという不安もありましたがスタッフ、大学生の方々の対応も優しく丁寧で、他の参加者の方々も自然に受け入れて下さって安心しました。

三日間の中で一番思い出に残ったのはグループディスカッションです。私のグループは「戦争と平和」という議題で、この難しいテーマにどう向き合うのかと最初は不安でしたが、みんなそれぞれの考えを持っていて、それらを聞くのはとても興味深かったです。みんなの知識の幅も広く、だからこそ色々なことを考え、意見を出せるのだな、と感じました。特にこのセミナーに集まった人々は東京、神奈川のみならず色々な地域から来ているため、より意欲があり、知識の幅が広い方々が集まってきたのかとも思います。

このグループディスカッションで、みんなの知識の豊富さに驚かされるとともに、自分の知識の貧弱さを感じました。特にイラク戦争に関しては知っていることが少ないだけでなく自分の中で混乱もしていて、会話についていけなくなりそうになったりもしました。今まで私は浅く広く戦争などについて勉強してきたつもりですが、これからは一番身近なイラク戦争について特に知識を深める必要があると感じました。私の家は新聞を購読していませんが、時々でも新聞を買って、読み、世間の出来事を把握しようと思います。

また、「戦争と平和」という議題でグループディスカッションをする際、「私たちはどのようにこの問題に向き合えばいいのか」という疑問をかかえながら私はディスカッションに参加していました。今、日本では、はっきりと目に見える戦争は起こっていませんし、表面上は平和であるようです。遠く離れた異国で戦争が起こっている、それに対して私たちはどうするのか。このことを考える際に私たちは主語を「日本」にしてしまいがちです。「日本」はその国に対してどうするのか。「日本」、「政府」と主語をおいてしまった時点で「私たち」はそこから少し離れてしまいます。私たちは実はそれを知っていて、主語を「私たち」にしなければと思いながらそれが難しくて放り投げてしまったと思うのです。

以前、他のセミナーで「私たちができること」を考える際に「戦争」に対しての私たちの姿勢を考えたことがあります。デモをする、募金をする。「なんとなく」の答えは出ましたが、その答えは私にとってあまりしっくりとくるものではありませんでした。それは答え自体が物足りないのかもしれないし、あるいは自分の考えが足りないのかもしれない。

「戦争と平和」という問題に対する「私たち」の姿勢を考えるのは、たしかに難しいと思います。しかし、そのように一見遠い問題に見えるものに対して「私たちができること」を考えることはとても重要なことであるようにも感じます。私はそのような問題に対して、「自分ができること」を考え、政府などと大きな話をせず、自分ひとりでするちいさなことから始めてみようと思います。

## 国際理解セミナーに参加して

小島 明

異文化理解をするということは外国の文化を理解することだと思っていましたが、セミナーが終わった今は、それだけでないと感じています。

今まで異文化といわれると、アメリカ文化や中国文化などを想像していましたが、実は異文化はどこにでもあるもので、例えば、電車で隣に座った人もクラスメイトも異文化の中の存在だということに気がつきました。ということは異文化を理解をするということは、ある意味では友達をつくること、仲良くすることと同じ行為なのではないのかなと思いました。

自分から見て“イカした人”と“ちょっとありえない人”がいるとします。前者とは仲良くなるのはそれほど難しいことはありませんが、後者と仲良くなるのは格段に難しいことです。ではどうしたら仲良くすることができるのでしょうか。勇気を振り絞って話しかけてみたら、案外普通の人かもしれません。好きな芸能人が一緒かもしれません。しかし、それは自分がなにか行動を起こさなければ絶対に分からないことです。“仲良くしよう”、“理解しよう”と思うならまず、自分から動かなければなりません。そのことが出来なければ、言葉の壁がある外国の人たちとは、なおさらその人たちの文化を理解することは出来るはずがありません。

また仲良くする過程で、お互いの意見が対立することが多々あるでしょう。その時に自分の意見をしっかりと言い、相手の意見を聞くことができなければ、お互いの関係は良好とはいえないと思います。ぶつかりあったとしても、その結果、得られるものはあるはずです。

このことを世界的な規模で考えてみると、相手の意見を聞くことができず、また、相手の思いを理解することができないために、さらに、そのような努力をせずに、武力を使うという手段にでることが少なくありません。

私は、今回のセミナーを通じて学んだ異文化理解の方法をこれからの生活で生かしていきたいと思いません。そして同時に、日々の新聞記事やニュースに耳を傾け、それがどのようなことを意味しているのか、それに対する自分の意見を常に持って、生きて行きたいと思いました。

私が、今日のセミナーに参加して一番心に残ったことは、セミナーに参加したみんなが「国際理解」という枠にとどまらず、世界中のいろんな事に関心を持っていて、レベルが高く、スゴイなあと思えたことと、そういう友達に巡り会えたことです。

自分の周りには、そういう友達が今まで居なくて、「世界」のいろんな事について話合うという存在が居らず、いろんな人の意見を聞くということが全くありませんでした。

逆に言えば、自分の意見や考えが固まらせていなかったので、偏った考え、一よがりの考えや意見が自分には無く、今回のセミナーを通じて、「自分以外」の意見や考えを開いて、とても新鮮だったし、逆に、自分の今更「自分」が浮き彫りになり、とても反省しました。

特に、ワークショップでは、西先生のユーモラスな体言や次のレクチャーへの入り口となつた巧みな誘導の仕方、見変かいて、とても楽しかった、何気ないとても深く考えることができて、写真やビデオ、資料等を使って、次のレクチャーを深く理解することができて、とても良かったです。

また、レクチャーでは、多様な講師の先生方の話を聞いて、とても貴重な体験となりました。

その場に居る友達を、先生の世界に引越したような先生方の話は、お部屋に力を入れている、自然体で聞くことができて、とても楽しかったし、深く考えることができてきました。

それだけでなく、自分の意見を発表したり、意見をいって争ったりするのは、今回体験したワークショップやレクチャーでは、素直に自分の思ったこと、感じたことを表現することができて、良かったです。

また、2日間、ワークショップやレクチャーで学んだことを3日目のグループ発表として発表して、とても楽しかったです。一つのテーマに絞って、そのことに深く関心を持つメンバーと一緒話をして、意見を打ち合えて、とても楽しく討論することができた。一つのテーマに絞ったことで、意見を出しやすかったし、まとめた「93」と思っていたが、考え、意見を打ち合ううちに、どんどん追加が入って、深く見詰めていたことも、実は、深い学びと気づき。

それ、発表の後は、先生方の講評を頂き、自分達の見聞として自分自身を評価して、その自分の思いで、「疑問や未解決論を述べて、疑問を見つけた結論を出す」ということを先生方の講評の中で知り、このことを、自分の見聞につなげていけるよう、努めていると思います。

今回のセミナーを通じて、自分以外の意見や考えを持つ人々に出会ったこと、講師の先生方の貴重なお話を聞くことができたこと、また、優しいスタッフの皆さんに囲まれ、楽しく有意義な時間を過ごすことができた。今回、学び、吸収できたことを、自分の日々生活に活かしていけるよう、精進していきたいと思えました。

## 高校生のための国際理解セミナーに参加して

須藤智子

セミナーで、普段の学校生活ではあまり話すことの無い「異文化理解とコミュニケーション」「戦争と平和」「多文化共生」というテーマでディスカッションし、とても充実した3日間を過ごしました。

異文化理解とコミュニケーションでは、「豊かさ」とは何か、と改めて考えさせられました。豊かさには経済的豊かさだけでなく、自然、教育、治安、心の豊かさなど様々な指標があり人によって何を重要とするかによって決まるのであって、一概には日本、アメリカなどの先進国が豊かで、アフリカなどの発展途上国が豊かでないとは言えないと思いました。

戦争と平和では、なぜ戦争起きるのか、イラク戦争が起きてしまった理由、そして平和な世界を実現するためにはどうすべきなのかを学びました。私は、メディアの規制の恐怖を強く感じました。メディアが自由に報道することで人々にある一定のイメージを焼付け、さらに彼らを洗脳することさえ出来てしまう恐怖。私たちはイラク戦争が起こったとき、テレビや新聞でイラクの首都のバグダッドが陥落し市民がフセイン像を破壊するのを見て、自由が訪れ、イラク戦争は成功したと思ってしまう。しかしその裏にある多くの市民が傷ついたこと、米英軍の死者の半数以上がフレンドリーファイアーによるものだということを知らないのです。今の私にはそれをどう解決すべきか分かりません。これからいろいろなことを学んでいく上で答えを導き出したいと思います。

そして、多文化共生。オーストラリアに留学経験のある私はこのテーマにとっても関心がありました。多文化社会というとオーストラリアなどの海外のことであまり身近でない感じがしていましたが、今様々な国籍の人が住んでいる日本でも多文化共生が重要なキーワードになってきていることを初めて知りました。最後の日に私は宗教の違いにおける人々の共存について話し合い一応の答えは出したのですが、それを実現するのはとても難しく結局よく分からなくなってしまいました。

ですが、このセミナーを通じてたくさんのものでました。まず参加したみんなの世界情勢に関する知識や一人ひとりちゃんと意見を持っていることに驚き、またそういう意識の高い人たちとディスカッションをすることで、とても良い刺激になりました。自分と同じように世界に関心を持っている人がたくさんいることも分り、とても心強くなりました。そして色々なことに興味を抱くようになり、これからそれらについて少しでも多くの経験をし、読書をしていきたいと思っています。

このセミナーをきっかけにこれからも世界に、そして日本に目を向けて過ごしていきたいです。

## 感想

関根久理守

今回の「高校生のための国際理解セミナー」に参加させていただけたことを大変嬉しくおもっています。

今回のセミナーでたくさんのことを学びました。「異文化理解とコミュニケーション」、「戦争と平和」、「多分化共生」のレクチャー式授業や、ワークショップをはじめとしたグループ学習など、どれもとてもわかりやすく、また内容も今問題になっていることなので、とても興味を持って取り組めるものでした。僕はこのセミナーの参加者の中で唯一の男子だったのにもかかわらず、男女関係なしで内容の濃い話し合いや、自分とはまったく違う考えの意見を聞いたことがとても楽しかったです。それは、学校の授業の一環としてこのような形の授業をおこなったことがありましたが、僕の周りの友達には特に「異文化理解とコミュニケーション」、「戦争と平和」、「多分化共生」といったような社会問題にあまり興味を持っていないようで、今回のようなレベルの高い会話ができませんでした。同世代の人達と触れ合うことができたことは僕にとって大きな感動でした。

今回のセミナーでの学習を経て、一つの課題ができました。それは経済の問題です。今日、日本では日本経済の衰えが問題になっています。戦後、爆発的な勢いで経済成長を遂げ、一気に欧米や、ヨーロッパ諸国と並ぶ先進国に昇格したものの、経済を維持することの難しさに直面しています。今のポジションを維持することと、更なる経済成長の発展を期待しています。また、中国やインド、ロシア、ブラジルといった国々が目覚ましい発展を遂げていて、2050年には世界の主要国になると言われているのも、脅威だとも思います。

一方では世界の格差の広がりが問題となっています。欧米やヨーロッパ諸国のような北の国を中心とした先進国に対して、アフリカ、アジア諸国のような南を中心とした開発途上国との経済格差は年々広がる一方です。

開発途上国に対しても公平な貿易を考えた場合フェアトレードが考えられるが、はたしてすべての先進国が同意するかは疑問です。ではどんな解決方法があるかを考えるのが今後の課題です。

また、その課題を追求するためにも大学では経営学を学びたいと考えています。経営学を学ぶことで、世の中のマネジメントの仕組みを知り、どんなことをすることが、日本の経済の衰退を避け、開発途上国の経済発展に繋がるかを考えていきたいとおもっています。

## セミナーに参加して

竹中千紗

このセミナーに参加して、多くの人の意見や考えを聞くことができました。三日間とても短かった気がしますが、多くのことを学びました。ワークショップや最終日のディスカッションでは同じ意見や違う意見を聞くことができ、考えを深めることができよかったです。レクチャーでも著名な先生方の話を聞き、改めて考えさせられました。高校の授業よりも参加型で楽しかったです。

私が特に印象に残っているのはグループでディスカッションをした異文化共生についてです。異文化共生という一つの事についてグループで話し合い、様々な経験を聞くことができました。私は今まで、異文化共生＝「互いの価値観を理解し認めること」と考え、言葉ではわかっているつもりでした。しかし、話し合いにより、異文化共生について改めて考えることで考えがより深いものとなり、またその難しさにも気づきました。異文化共生には対等・対話が大切だという結論は先生のレクチャーやディスカッションを通して出たものの、身近に考えると難しい問題でした。実際日本人同士であっても、誰とでも共生することは難しいと気づいたからです。言葉も通じる同じ日本人の中でさえ苦手な子はいます。そして、なかなかコミュニケーションがとれず受け入れられない場合もあります。それが外国の人となるとより難しくなります。そう考えると日頃の人間関係を作っていくことが大切なのだと私なりに考えました。

今回あまり自分の意見を言うことができなかったことを今後悔しています。もっと積極的に発言できたら良かったです。このセミナーで今後における私自身の課題を見つけることができました。知識を増やし見方を広げ考えを深めること、対話をするためにも自分の考えをはっきりと述べて伝えられるようにすることです。これからもこのようなセミナーがあれば、是非参加したいです。そして、今回自分にできなかったことをできるようにしたいです。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

# 感想

中曽根桃子

## 異文化理解

ワークショップで写真を見て写っている人々の暮らしや大切にしているものなどを想像するのは、すごく難しかったです。

その後何枚かの写真を“豊か”な順に並べる作業はさらに難しかったです。確かに物の数や建物、道路などで比べることは可能だが、物が少ないから豊かじゃない様には見えなかったからです。

物が少なくても仏像などをすごく大切そうに抱えて持っていて、強い信仰や信念を持っているのが見てとれたからです。また、物が少なくても人々の顔が笑っている写真が多かったからです。

目に見える物で比較すれば、日本の写真は物であふれていて凄く豊かに見えたが、唯一家族がバラバラに写っていてちょっとさびしい印象をうけました。どんなに物が多くてもそれだけでは“豊か”とは言えないと感じました。

## コミュニケーション

周りがみんな自分とはまったく違う文化をもつ環境に入ったとき気持ちが落ち込んで、話す人もいない時、自分の好きな音楽を聴いたり好きなものを食べたりすることから周りとのコミュニケーションをとれることを改めて知って、次に外国に長く行く機会があるときに気持ちが落ち込んだ時に実際に試してみようと思いました。たとえ言葉が通じなくても、お互いの文化を知るきっかけはたくさんあると知り、なんかほっとしました。

## 戦争と平和

イラク戦争の映像を見たとき、戦っている兵士も、武器を持っていない国民も、みんな大きな被害を受ける戦争はすごく怖いとあらためて思ったと同時に、これから戦争がない世界をつくっていきたくて強く思いました。

戦争があれば安全はないのなら、どんな理由でも戦争はやってはいけないと思います。

また、現代の戦争は軍事費の少ない国と多い国、見えない敵と定義したテロとの戦いなど、どちらか一方の国が圧倒的有利だったり、一方が莫大な被害を受ける戦争があることを知りました。

ワークショップやグループ討議の時に、どんな国も軍事費の多い国とは戦いたくないから、軍事費が多い国はそれを権威や権力として持っているんじゃないかという意見がでて確かに、戦争は抑えられるかもしれないが、それは強い国と弱い国になってしまい、対等な立場で戦争がないわけではないから、いつか弱い国から不満が出て結局争いはおきてしまうと思うから、軍事費や武器はいらないと思いました。しかも、いま軍事費などをゼロにするのは無理かもしれないが、誤解や偏見、小さな争いから戦争が起こるのなら話し合いなどで解決することは、長い時間がかかるかもしれないが、可能なのではないかと思いました。

ワークショップで戦争をなくすためにできることで優先順位をつけなくては行けなかった時、自分が思ってもいなかった意見や、自分とは逆の意見が出てすごく楽しかったです。

戦争は国と国でやっていることだし、日本でやっていないから自分とは関係ないと思わないで、実際日本でもイラク戦争の時に大きな問題になっていたしもっと問題意識をもってテレビのニュースをみたり新聞を読んだりしていきたいです。また、一人でも多くの人に持ってもらえるような活動をしていきたいです。

## 多文化共生

今日本にいる外国人の数の多さを聞いてびっくりしました。私が住んでいる市でもよく外国人を見かけますが、その人たちが何で日本に来ているのかとか、どこから来ているのかもわかりません。近所に住んでいる外国人とは挨拶はするが、その人の文化や言葉については知らないことがたくさんあります。たとえ知っていてもすぐに仲良くなれるわけではないかもしれないが、本やインターネットを使えばすぐ分かることはたくさんあるし、知ることによってその人への偏見や誤解は減ってその人を見る目が変わると思いますし変えて行きたいです。すごく難しいこともあるかもしれないが、自分で出来る小さなことは、まだまだたくさんあることを再発見でき、うれしかったです。

## 国際理解セミナーを終えて

中村愛弓

私は一日目に早くついてしまいましたが、部屋で待っている際も大学生の方々が話しかけてくださったり、早く来たセミナー参加者と自己紹介しあったりと和やかな雰囲気でした。私は今までに留学をした経験はなく、このようなセミナーに参加したこともありませんでした。そのため参加者の人で留学経験者が多いことには驚きました。留学経験者の方からは考えるときに経験をふまえた意見がきけたのでとてもよい刺激になりました。

そしてワークショップではそれぞれが真剣に考え、その意見をグループ内で自分たちの意見を高めていくことができました。自分ではあまり考えがまとまらず、バラバラだった意見もきちんと口で説明できるようになりました。それでも、自分がこれは大切だと思う自分の意見や考えはグループ内だけでなく全体の場でも相手に伝えることで、考えていた以上のことがかえってくることで多く自分の意見がよりいっそう深まりました。

レクチャーではいままで考えたり教えてもらう機会がなかった分野について教わり貴重な経験となりました。もっとも印象深かったのは「戦争と平和」のレクチャーです。

今まで私にはひとつ疑問がありました。それは歴史で簡単に習ったり、素晴らしい戦いとして映画化されたりする戦争と、今起きていたり、考えていかなければならなく、惨さを伝えるために映画化される戦争の違いがよくわからずにいました。前者の戦争では、戦法が評価されて映画にされたものや、戦争の中心的人物（指導者）の視点からなるものだったり、勝利すると「すごいぞ！」と讃えられる戦争ばかりです。

たとえばアメリカがいま何かしらの戦争で勝ったとしてもそれはきっと讃えられ映画になったりはしません。今まで私は映画化され、称えられた戦争とそうでない戦争もどちらもかわらず人は殺されているのになぜ歴史上の戦争はこんなにもあっけなく、戦法が素晴らしかったなどと言いつづけているのかよくわからず、不思議にかんじていました。「戦争と平和」のレクチャーではテロについて学ぶことができました。テロの存在もきっと上の疑問と関係していると思うのでよい経験になりました。

これから、私はまだ高校一年生なので国際問題について考えるセミナーに参加したり、自ら調べてきちんとした意見を持ちたいと思います。また、今回のセミナーで得た経験、知識を将来に役立てたいです。

## 東京外語大学での感想

中村桂子

ワークショップでみんなの話や考え方などを聞いてすごく圧倒されました。でもそれが良い刺激になり、私もだんだんと自分の考えやその説明などができるようになりました。また、こういう考え方もあるのだって思えて広い範囲で物事を考えられるようになったと思います。そして、三日間話し合ってきたテーマは、普段あんまり考えたりすることなくて、結論を出すのは難しいものだったけれど、みんなでそのテーマについて真剣に話し合えたことがすごく嬉しかったです。私はこれから三日間話し合ってきた問題について、自分が出来ることは少しでも実践していきたいと思います。また、このような企画があれば積極的に参加していきたいと思います。短い期間でしたが、とても充実した楽しい三日間でした。本当にありがとうございました。

## 高校生のための国際理解セミナーに参加して

野間千晴

### セミナーの感想・これからの課題●

受験を控える私にとって、「自分の進路を考える上で同年代の人と私の興味があるテーマについて話し合ってみたい」という軽い気持ちでこのセミナーに参加しました。とは言っても未だ私が何を大学で学びたいのかは明確ではありませんが、少なくともこのセミナーを通して、「国際理解」という枠組みがいかに大きいものである事かを理解しました。

3日間に渡って「異文化理解とコミュニケーション」・「戦争と平和」・「多文化共生」の3つの大きなテーマについて講義をうかがいディスカッションを重ねました。どのテーマも高校生の私には大きすぎるというものばかりでしたが、これらについて興味関心を持ち、正しい事実を把握した上で自分の意見を持つことがテーマを身近に感じるための道であると実感しました。

なかでも塩原先生の講義では「多文化共生」のありかたについての考えを伺いましたが、結論として「寛容であったり非難したりするのではなく、批判せよ」と先生はまとめられました。自国の文化が当たり前であると考えたり、他の文化を見下して接することは共生にはつながらない。つまり国境がだんだんと低くなっている国家と共に自分の周りにある壁も低くしていかなければならないという事です。しかし、自分の文化のなかに他の文化を見下すような習慣があったり、周囲の環境が多文化共生に対して非協力的である場合に、自分のみが批判的である事は容易なことではありません。実際にアメリカに住んでいた時に、白人の人にはネイティブアメリカンに対しては昔からその地域では見下すような偏見が既にあったことから、生まれたときから脳裏に染み付いた考えを変える事は困難であり、つねに批判的であることは用意ではないこともありました。なんらネイティブアメリカンへの偏見がない私にしてみれば、批判的である事の難しさを全く理解することは出来なく、その偏見をなぜなくせないのが理解できませんでした。そのなかで先生がおっしゃったように「1%でも多く分かり合う」という事が大切になってくるのだと思います。

私はラテンアメリカという地域にとっても興味をもっていて、その地域について研究していきたいと考えています。その研究の中で「多文化共生」というテーマを大きく掲げ、南米のマイノリティ（特にインディオ）への偏見がありながらも多文化共生をしていくための道を探っていくのも面白い研究になりそうだなと思い始めました。今私に必要なのはまず大学受験に合格することですが、ぜひ「多文化共生」をテーマにした研究をしていきたいと思っています。そして何らかの形でだれかの為になる仕事に尽きたいです。

## 高校生のための国際理解セミナーを終えて

野本奈津美

とても充実した3日間でした。東京だけでなく、いろいろなところから来た同年代の仲間と、一緒に学び、話し合えたことは自分にとってとても貴重な経験でした。

3日間で自分の考えも少し変わりましたし、自分の知らなかった自分の考えに気づくことができました。特に「多文化共生」のレクチャーは後から考えてみると、自分にとって大きな意味があったと思います。私は、普段から周りの子は外国＝アメリカ、ヨーロッパみたいなイメージを持っているし、アジアやアフリカの人を見下している感じもあって嫌だなあと感じていました。自分はそうではいけないとも思っていました。でも、「国際理解」って言葉を聞いて何を思い浮かべる？と聞かれたとき、私は「英語」と答えました。そこで初めて、自分の中にも欧米に偏っている部分があるのだということに気づくことができました。また、「共生」するためには、親切にしたり、寛容にしたりするだけでは限界があるという考え方で自分の考えが少し変わりました。それまでは、「外国人には親切にしない」というような固定観念がありましたが、これからは、普通に日本人と友だちになるのと同じように、最初は親切にするとかそういうことで始まったとしても、だんだんなんでも言い合える仲になりたいなと思いました。そして、今回のセミナーでこれからの自分の課題に繋がるものが見えてきました。それは、グループ討議で行った「近代化と豊かさ」の問題です。私たちのグループは、豊かとは経済面、精神面、両方豊かであって言えることで、相互は繋がっている、そのように世界がなるにはどうしたら良いか、ということで解決策を提示したのですが、どれも、大規模なものばかりで、自分たちが今すぐ行われることまでは考えられませんでした。なので、セミナー後、自分で考えてみました。そして決めたことは、本当に小さいことですが、まず、部屋をきれいにしたり、スケジュールをちゃんとたてたりすることで自分の心に余裕を持てるようにすること、そして、人に優しくすることです。これは、精神的な豊かさが足りないということから、まず自分の周りから変えていこうと思ったからです。次に、月1000円、アルバイト代からユニセフに募金することにしました。これは他の国が経済的に豊かになるために今、自分にできることといたら、募金だと思ったからです。そして、最後は、しっかり勉強することです。私は、大学は経済学部に進学することが決まっていて、途上国支援のための開発経済学を学び、将来は、途上国への援助をする仕事をしたいと考えています。なので「近代化と豊かさ」の問題を大学や大学院で勉強するなかでもしっかり考えてき、将来、バランスのとれた支援をしたいと思います。今は、そのために、大学から出ている課題をしっかり勉強したいと思います。また、今回のように、これからも自分が興味を持ったことは何でも挑戦していきたいと思います。

## 国際理解セミナーを受けて

長谷川沙季

私はこのセミナーのパンフレットを見たときに一番に目がいったのが多文化共生でした。前々から「多文化共生」ということばを聞いたことがありましたが、しっかりと理解できているわけではありませんでした。なので特に多文化共生に関しては特別強い関心がありました。

セミナーの3日間の間、レクチャーを受ける前にワークショップを何回かしました。ワークショップを体験したことはありませんでしたが、身近なところから考えたり、個人個人の意見を聞いてくれるのでレクチャーを受ける前段階のみんなの考えなどがきけてとてもおもしろかったです。

「異文化理解とコミュニケーション」はW曲線が印象強いです。自分のこととなって考えられる、わかりやすいレクチャーでした。

「戦争と平和」のレクチャーでは少し突っ込んだ話で興味深かったし、その前のパワーポイントでの世界地図で戦争の発生地、各国の軍事費などの知ってそうで知らないことをしれて戦争を考える上での距離が縮まった気がしました。

そして最も気になっていた「多文化共生」では一言に、「けんかするほど仲がいい関係」ということばをよく覚えています。でもやはりいかに対等になるかはとても難しいことであると感じたのでこれから自分なりに考えていきたいという課題ができました。

グループディスカッションでもそれぞれが持っている意見をひとつの形としていくまでの過程がおもしろく、またやりたいなと思いました。

このワークショップやレクチャーを受けて、いかに自分の意見をしっかりとっているか、いかに柔軟に相手の意見を聞くことが重要なことかと実感しました。また時には相手の意見を全部吸収するだけでなく、いかに批判的にとらえて自分で考えていくことも大事なことだとおもったので、これから意識的にやってみたいと思いました。またこれからもいろいろ刺激を受けながら自分という軸をしっかりとった人間になっていきたいと思います。

このセミナーで知識など以外にも学んだことがあります。それは「出会いの大切さ」です。普段の生活で戦争、平和、多文化共生などの大きいテーマについて語るということが出来る友達は少なく、あまり話す機会もありませんでした。しかしこのような国際理解セミナーというところに集まった同世代の人たちと話せるということはとても嬉しいことであり、大切なことでもあります。そして同世代に自分をしっかりとった人たちと出会えることは幸せなことです。

この3日間はお互いに刺激し合いながら、自分以外の意見や価値観に出会えた濃いものでした。

本当にこのようなすばらしい機会をもうけてくださった東京外大の先生方やスタッフ、生徒のみなさんに感謝します。ありがとうございました。

## \*\*\* 感想 \*\*\*

平田優衣

このセミナーに参加したことで、国際交流に興味を持っているたくさんの同年代の仲間に出会うことができました。これまで「国際」というトピックについて真剣に話し合える友人がいなかったのも、そうした仲間と出会えたことがとても嬉しいです。

書かれていたプログラムを見たときに、どちらかという受身系のセミナーなのかと想像していました。でも実際は主に、自分で考え、その考えを共有しあうという参加型でした。ワークショップで、自分で考える時間があるので、その後のレクチャーでもただ「受け取る」だけでなく、考えをより深めていくことができました。

どれも興味深かったのですが、中でも私に一番印象に残ったテーマは「多文化共生」でした。これは、私自身の経験と重なりあうものだったからだと思います。タイ在住の間アメリカ式インター校に通っていた私の中には、日本、タイ、アメリカという3つの文化が共存しています。私にとってその3つはどれも思い出深く大切なものなのですが、同時に中途半端に感じることもありました。3つの文化のどれが本当の自分なのか悩んだこともあったし、3つ知っているということはどう上手く生かしていけばいいのか、道に迷った感覚を持っていました。でも、このテーマを扱ったことでだんだん心の整理ができていったような気がします。ワークショップで似たような子供のことを話し合い、悩みを客観的に見ることができ、自分の状況を思い返しました。当時の自分ができなかった行動や考え方を知り、視野が広がりました。

グループ討議でも同じテーマについて取り組んだので、より詳しく分析したり、他のひとの実体験や感想を聞いたのも貴重な時間だったと思います。最終的に「共生は難しい」という結論に至ったときも、自分が過ごしてきた時間が認められたようで安心した気持ちになりました。でも「難しい」というのを、身をもって分かっているので、それなら自分はどう行動していけばいいのかをもっと考えていきたいと思っています。

他の人の意見をきいて生まれる気持ちや引き出される視点があったのは、新鮮でわくわくしました。一人ひとりの意見が重視され、その一つひとつから発展する議論があったりということに対する喜びも感じられました。そして、大学生やスタッフの方々の活動を見て、憧れの気持ちも抱きました。

これから私は今回学んだことをじっくり考え直していくつもりです。機会があれば、このようなセミナーにもっと参加して自分を高めていきたいと思っています。自分のなかにある文化を第三者の目で考え、また、どんな行動が多文化共生を成功させる環境を作るのかということなどを考えていきたいです。外国人とふれあう企画などにも積極的に取り組んでいきたいと思っています。このセミナーで、自分を見つめなおすことができたこと、尊敬すべき仲間に出会えたこと、いろいろな人の意見がきけたことなど、すべてが私を成長させてくれました。とても大切な思い出になりました。

## 三日間で学んだこと

昼間 彩

私は以前から、少し異文化について興味があったので、この機会に、他の違った文化に対する、自分の考えを深めたいと思い、この国際理解セミナーに参加させていただきました。初日になるまで、大きな期待に胸を膨らませ過ぎ、ドキドキしていて、夜も眠れない程でした。

実際に、セミナーが始まり、進んでいくにつれ、皆の発言者の凄さに圧倒されっ放しで、抱いていた期待よりも不安の方が大きくなっていましたが、今までに、大学の先生方の講義を受けたり、皆で一つのテーマについて話し合っていたりすることがあまり無かったので、とても新鮮かつ面白かったです。なので、三日目のグループ討議では、それぞれの意見を交わすというか、思ったことを出し合う中で、自分が考えてもみなかった内容の捉え方を知ることが出来て良かったし、ためになりました。また、それだけではなく、国際的要素が凝縮された三日間で、私は「人に物事を伝えること」や「世界的な視野（時には小さな視点に立つことも必要ですが・・・）で物事を考えていくこと」の大切さを学ぶことが出来ました。

これからは、今回のセミナーで経験し、そして、学んだことを自らの栄養として、もっと異文化のことを学習していくと共に、様々な国の人々と交流をして、今よりもさらに世界への視野を大きく広げられる様、自分という芽を伸ばしていこうと思います。

最後になりましたが、今度このセミナーに携わって下さいました、東京外国語大学の先生方や外大生の皆さん、そして、参加した高校生の皆さんのおかげで良い経験が出来ました。本当に有難う御座いました。

## 外語大高校生のためのセミナーの感想

深澤星子

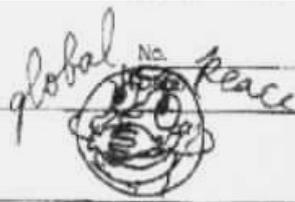
最初、このセミナーに興味を持ったのは、「戦争と平和」というトピックに関心があったからです。そして、終わってからもやはり印象に残っているのは、戦争について、みんなと討論したことだと思います。

今回扱ったテーマは、どれもとても難しく、普段はあまり深く考えることのないものばかりでした。特に、多文化共生は本当に私にとって難しく、日本の中で国際化は起こりつつあるのだということがよくわかり、勉強になりました。毎日初めての事ばかりで、すごく新鮮でしたが、今回は私の中に強く残り影響を与えたことを書こうと思います。

二日目に見たイラク戦争のビデオは、本当に泣きそうになりました。そのあと紙に書いた私の思いは、「悲しい」「怒り」そして空欄に書いた、「なんとかしたい」でした。同じ時を生きていたのに、なにもできなかった。そんな悔しさや怒りが、これからの戦争を未然に防ぎたいという気持ちを起こしました。そのあとに行われた、グループ討議。私と同じことに関心を持っていて、これだけの話し合いができる同年代がいることに気づきました。私たちのグループでは、「なぜ戦争が起こるのか」「どうしたら起こらないのか」について深く話し合いました。どれも、解決が難しいのは分かり切ったものばかりでしたが、一応私たちに答えをだし、解決への道を探ることができただけでも、有意義な時間を過ごせたと思います。

今後は、私の感じた「なんとかしたい」という思いを、思うだけにとどめずに、実行に移せるようになりたいと思っています。そのためには、やはりもっと勉強する必要がありますし、視野も広げないといけないと思います。

このセミナーで、同じ意識を持つ人に出会えたことができ、自分の中の目標が確実になり、本当によかったと思います。これから、みんながどうなっていくのかも楽しみです。何年か後にまた会いたいです。私も、その時にはちゃんと目標に向けて頑張っている自分でありたいと思います。



セミナーを終えて\*

相同のセミナーを通じて私が感じたことは、自分は今まで世界と何の関係もなかったと信じていた。と自分だけの視点でしか世界を捉えていたということだ。様々な世界の現実」を知ること、これからの情報を支えてきた自分の視点から向き合っていくことが必要であると感じました。

・ 中でも特に「多文化共生」というテーマは私がこれから学ぶと覚悟していたテーマであり、ワークショップを通じて、その難しさと対応の重要性を知りました。また最終日には「多文化共生」というテーマのグループディスカッションがあり、現実の問題にどう向き合っていくかについて考えたこと。と意識的だった。グローバル化が進み、世界が均一化していくと変われる現在、多文化の共生していく上でそれが求められることは間違いないと思う。それまで別々に進歩してきた人々が歩み寄り自分たちを責めたりする必要はないと改めて思った。それが行き過ぎれば、個々の文化が失われてしまう。互に学び合う文化の人々の同歩調を促すことが大切だとすれば、「多文化共生」の「共生」とは本来目指していることだ。と改めて思った。これに私が今回のセミナーを通じて多くの視点が共有できたと感じていた。と書いています。これからこの姿勢を続け、考え行動していきたいと思っています。 堀川 梨紗

## 感想

本田貴和子

私が今回の国際理解セミナーに参加したきっかけは千代田区で行われた地球市民講座でした。この時に初めてワークショップというものを受けた私は、ワークショップの楽しさや分かりやすさに感動し、この時の講師をしていらした木下さんの担当するセミナーならきっと楽しいに違いないと元々期待に胸をふくらませて参加したのですが、その大きな期待以上のものを今回、得る事が出来ました。何を得たか、と聞かれると明確な答えはないのですが、何よりも私自身の将来について大きく考えさせられました。

エスカレーター式の学校に通う私は、大学に行ってから決めればよいという甘い考えの下、高三でありながら今まで自分の将来についてあまり深く考えていませんでした。でも、この国際理解セミナーに参加した初日から、かなり多くの刺激を受けました。

自分と同じ年、または年下のみんなが自分の意見をしっかり持ち、その意見を堂々と発表する姿を見て大きなショックを受けた反面、学校のクラスでは体験できないような一つの問題に対して意見を互いに交換しあう楽しさを知りました。また、それと同時に自分の意見を伝えることの難しさも実感しました。しかし、自分の意見を発表する機会がセミナー中に何回もあったので、最終日のグループ討議ではグループ内でも積極的に自分の意見を言うことが出来る様になっていました。

また、このセミナーに参加するまでは国際理解というと、すぐに欧米の人々との共生を思い描いていた私でしたが、塩原先生の多文化共生のレクチャーを受けて日本国内にいる外国人のほとんどがアジア人であることを知り、私の国際理解に対するイメージはガラリと変わりました。そして、私の心の中にあつた国際問題に対する興味がさらに大きくなり、高校の卒業レポートのテーマを国際問題に関する事に変え、大学では国際問題について詳しく学ぼうと思うまでになったのです。

このセミナーが私に与えてくれた影響はとても大きかつたし、また、刺激を与えてもらえる友達に出会うことが出来たことが何よりも嬉しかったです。

今回ここで教わつたこと、素敵な出会いを大切に、これから、さらに国際理解に関する知識を深めていきたいと思います。

## 国際社会の一員として

松島周子

同じ考え方でも、少しずつ違う視点で一人一人が捉えている。それは当たり前かも知れないけれど、学校ではなかなか実感できない。全国から「国際理解に興味がある」と集まった中にいるからこそ実感できる。学校ではなかなか真剣に話し合えないけれど、海外で過ごした経験のある人が多かったから分かり合える。積極的に発言する人もいれば、休み時間のおしゃべりで自分の考えを言える人もいる。自分の意見が周囲に影響を与えたり、他の意見に自分が考えさせられたり。3日間のセミナーは毎日が新しい視点の発見ばかりだった。

3日間はあっという間に過ぎ、学年に関係なく友達ができた。最終日のグループ討議ではほとんど気兼ねすることなく自分の意見を言えるようになっていた。真剣に「知りたい、考えたい」と思ってきた人ばかりだから、短期間でもしっかりと意見が言えるようにもなったし、聞けるようにもなった。

セミナーを通して学んだのは、国際理解の問題について完璧に答えを出すことではなく、問題の考え方だった。グローバル化する社会の一員として一人一人が自覚して考えていかなくてはならないのだ、と感じる。

## 異文化理解とコミュニケーション

国名を明かさず、様々な国の生活の様子をみんなが想像してみよう。  
「豊かさ」についてあらゆる層の意見がとりまわらなければなりません。こまごまお話しを聞いて。  
一枚の写真を見るという点において、自分とは違う異文化者の方の人のいる、  
大分参考にしたい。レクチャーでは私は未経験な「コミュニケーション」に  
ついて、他の参加者のみなさんの実体験を聞くことができてよかった。  
また、国によって話し言葉の相手との距離感や手先の強さが違うということを知  
りてくれた。自分の将来海外へ行く際に活かしたいと思ってる。

## 戦争と平和

イラク戦争の映像は、このセミナーの中で私の心に強く残りました。映像  
を見て自然と涙が出ました。同時に「平和」という感情と「悲しい」という  
感情で溢れた。私は関係ない、と目を背けたが、自分、戦争とは何かについて  
考えようとした。自分から自分に気づかされた。レクチャーを通して、「戦争映画」  
に興味をもちたいので、これから本を読んだり勉強してみたい、と思ってる。

## 多文化共生

ワークショップでは、ベトナム難民について考えていきましたが、日本は難民を受け  
入れているのは聞かざる、国民は難民に文句を言う理解や知識が浅く、受け  
入れる体制が整っていない、ということに気づきました。日本に何故場所を求め  
たのか、それもそれで難民の人口が半分に減らされると言われるとどうしては、特に  
生活していく周囲の人々の理解が必要なのだと、ということもわかりました。レクチャーでは、  
「他人と100%分り合うことは無理だけれど、1%でも多く分り合うことが大切」  
という言葉が印象に残っています。様々なデータから、今の日本に自分の想像より  
はるかに多い外国人が暮らしていることが分かって驚きましたが、これからますます  
増えていくにあたって、日本人が「共生」というとる前向きな姿勢をもつことが  
身息に必要ではないかと思っています。

## これからについて

グループ討議では「豊かさ」と「近代化」について話し合いましたが、お話しの中で考えた  
豊かさの実現のために、私ができる身近なことについてという点まで考える時間が  
なかったので、今後考えていきたいと思います。それから、私は多文化教育について  
勉強していきたいと思っています。文字だけでなく本を読んだり、今回のように  
セミナーなどに参加していろいろな人の話を聞き、そして自分自身の意見や考えを  
しっかりとものにしていきたいです。

渡邊 倫

# 大学生スタッフ、留学生、支援室スタッフの感想

## 大学生スタッフ

今回国際理解セミナーに参加して、3日間通しての高校生のみなさんの集中力に驚きました。

私が大学に入学して間もない頃は、高校と違って時間が長い大学の授業がつかつた思い出があります。(いまでもそうですけど・・・)

今回も、1時間半～2時間くらいのレクチャーのあとに少しの休憩をはさんでワークショップをしたりと、かなり中身の濃い日程だったにも関わらず、みなさんが集中して話を聞いて積極的に参加しているのを見て、すごいなあと思いました。

また、話し合いの際に、自分の意見を言うだけでなく、人の意見を聞いて理解しようとする姿勢がとても印象に残っています。ワークショップの時に、一人ひとりが優先順位をつけたものを、みんなですべてついにまとめなければならない作業をした時は、もめたりするのではないかなあ…とっていました。けれど実際は、お互いが「なぜそうしたのか」という意見を言い合って、「そういう考え方もあるね」と相手の考えを尊重しながら話し合っていく姿を見ることができてよかったです。

今回は高校生対象のセミナーということでしたが、高校生、大学生、留学生、大学の先生方など、いろいろな年代、いろいろな人が集まって一つのことについて考える場に参加して、私自身もいろいろと考えさせられました。高校生の感想で、「この経験をこれからの生活に生かしたい」という意見がありました。私も、このセミナーでたくさんの人に触れて刺激を受けたので、これからもいろいろな人と触れ合う機会を作っていきたいと思います。

皆さん、お疲れ様でした！そして、ありがとうございました！

はまき あゆみ

浜崎亜裕美（朝鮮語専攻4年）

参加した高校生達のレベルは予想よりはるかに高かったので、ちょっとびっくりしました。更に参加者のうち、男の子がたったの一人というのもかなり驚きました。これからは女性の時代が来るのかなと思いました。朝早いのに、遅刻する人もほとんどいなくて、みんな本当に偉いなと感心しました。自分の高校生時代を思い出すと、少し恥ずかしく思いました。

参加者のほとんどは社交的な性格の持ち主で、お互いのコミュニケーションは全く問題がなかった。結構短時間で皆仲良くなれて本当に良かったです。討論会の時も、ほとんどの人が積極的に発言出来て、本当にすごいなと思いました。まだ若いのに、よくこんなにも自分の意見をはっきりと言えるなど、かなりびっくりしました。皆さんが出した意見というのも、けして感想的なものではなく、きちんと理論的に考えた出されたものばかりで、隣で聞いている自分もいろいろ参考になりました。担当した先生方の授業は、けして簡単な内容ではなく、うちら大学生が受けるものとあんまり変わらなかったような気がする。にも関わらず高校生の皆さんは、全く動揺すること無く、授業内容をきちんと理解出来ていて、鋭い質問もかなり出ました。やはり今回来ていた皆さんは優秀でした。また、最終日に報告書作りを手伝ってくれた高校生も沢山いたので、本当に助かりました。

今回のセミナーはこれでまだ一回目ですが、これを経験に今後も続けていくべきだと思います。

しゅう しゅうのう

周 首能（朝鮮語専攻3年）

グローバルな問題に日ごろから興味をもつ高校生が集まって、意見を交わしたりレクチャーを受けたりと内容もりだくさんだったこのセミナー。私は学生スタッフとしてこのセミナーに参加したわけですが、高校生のみなさんの活動する様子を横で見ている感心させられる場面がいくつもありました。高校生なりの独創的な発想や意見、プレゼン能力は大学生や大人をもあっと言わせるものがあったように思います。

一方残念だったのは、テレビやインターネットなどの影響からか高校生の持っている情報や考え方が偏っている、又は短絡的であるように感じたことです。世界中のあらゆる出来事は何であるにしろさまざまな要因が複雑に絡み合っている、そのことを高校生の皆さんには今一度考えてもらいたいと思います。そのためにはさまざまな本を読む、一つの事象をあらゆる角度から考え抜く、情報のアンテナをはるなど主体的な行動が有効な手段ではないでしょうか。

いずれにせよ高校生のみなさんの将来が本当に楽しみです。私も負けてはいられないと実感した3日間でした。この経験を必ず今後の人生に生かして頑張ってもらいたいと思います。

すなだ  
砂田かおり（ドイツ語専攻2年）

高校生を対象とした今回のセミナーであったが、名前だけ「大学生」である私にとっても非常に刺激的で意味のある経験になったように思う。

まず、参加した高校生たちの問題意識の高さに驚かされた。恥ずかしながら、もうすぐ二十歳を迎えようともいうのに、日々うすらぼんやりと生きている。いわんや部活にまっしぐらの高校時代をや。高校生たちの活気溢れる姿に触れられたことは、自堕落な生活を省みる良い機会となった。

私たち大学生スタッフの役割は、高校生たちのディスカッションを補佐することであったが、これがなかなか難しい。下手に口出ししてせつかくのディスカッションを盛り下げてはいかない。かといって何も言わないでいると、高校生たちも自分の意見を考えるのに頭をフル回転させているのだろう、せつかく出た良い論点に気付かないまま通り過ぎてしまう。いつもワークショップでさりげなく抜群な助言をしている木下さんや西さんの「スゴさ」を実感した3日間であった。

最後に、今回のセミナーで学んだことをもとに、これからの支援室での活動をいっそう良いものにしていきたいと思う。

たむら  
田村かすみ（スペイン語専攻2年）

## 留学生

日本の高校生というと、なぜかしら距離を感じていました。自分と比べるとあまり若いからかも知れません。実際皆に日本にいる期間、日本語を勉強した期間を言った時目がまん丸になったのをはっきり覚えていますよ。みなさんと一緒にいた時間は少ないですが、多くの発見が出来ました。一人一人「自分らしさ」を持っているのが一番記憶に残っています。セミナーに参加して、意見発表する時きちんとした理論を持って大きい声で発表する人もいれば、発表しようこの場で成長しようとする人もいました。話し合いで突っ走って引っ張る人もいれば、スムーズに進めるように促す人や記録する人、凝った雰囲気や和らげる担当など自分も気づいてないのでは。それぞれ個性強く、でもきちんと話し合いが出来、誰も真剣に取り組むまじめさを感じ感心しました。皆さんには『正解』を出すためにではなく、「考え、論じ、やる」ことで、もっと多く深く感じられるはずです。これ以上しっかりなったら私がかかなり危ないのですが、楽しみでもあります。また、会いたいですね。

りとうばい  
李冬梅

実は私、交流会に参加して何をやる、何を言う、どんなことを準備すれば良いなど、色々考えてちょっと迷ってました。しかし私実際に参加して、木下先生の授業を聴いて、とても気に入ったし、田村さんの笑いや動き、言葉などがとても面白かった。

そして美味しいご飯を食べながら高校生達とコミュニケーションを取ってみんな本当に優秀な方々だと思いました。岡崎先生、木下先生、和田さん達に毎度あたたかい声をかけて頂き、色々お世話になって本当にありがとうございました。

交流会に参加してとても楽しかったし、内容も素晴らしかった。今回の交流会に参加して色々勉強になったしこれからもっと頑張るという気持ちになりました。

ちよこ  
朝克

## 多文化コミュニティ教育支援室スタッフ

僕は支援室のスタッフといっしょにセミナーの運営にかかわり、また教員として「多文化共生」のレクチュアや3日目の講評などを担当させていただきました。事前に講義を準備する際、「多文化共生」という複雑な意味をもち論争の余地が大きい考え方を、いかに分かりやすく説明できるか苦労しました。けれども、レクチュアをつうじてみなさんに伝える内容そのものは、なるべくレベルを落とさず、大学生に対するメッセージと同じものを伝えたいと思いました。それで、言葉遣いを工夫したり、講義にコメントを取り入れるなど、いままで大学の講義ではしたことのない試みもしました。

そのなかで考えさせられたのは、物事を人にわかりやすく伝えるためには、その物事をより深く理解していなければならない、という当たり前のことです。「多文化共生」について高校生向けの教案を作成するという取り組みのなかで、僕自身のこの問題への理解がより深まっていくのを感じましたし、その深まりを今度は大学生向けの講義の際に生かすこともできていると思います。

参加した高校生のみなさんと対話することは、自分のなかの「いまどきの高校生」のイメージを良い意味で崩してくれる経験でした。こんなに知的で、好奇心旺盛で、真摯な若者たちが育っているのなら、この社会もまだまだ捨てたもんじゃない。むしろ、高校生のみなさんが今回のセミナーで得たさまざまなものを伸ばしていけるかどうかは、大学で働くわたしたちののんびりにかかっているのだということに、あらためて思い至りました。

みなさんと出会えて、とても良かったです。またどこかで会えるといいですね。

しおぼらよしかず

塩原良和（外国語学部准教授 多文化コミュニティ教育支援室専任教員）

3日目の最後に、皆さんに一言ずつ感想を言ってもらったとき、「自分ですら知らなかった自分の意見を、まわりのみんなに引き出してもらった」という言葉を聞いて、このセミナーを企画したぼくとしては、とてもうれしく思いました。

縦に引かれた1つの線の上で上か下かを競い合う、受験のための勉強ではなく、上も下もなく、いろいろに違う見方、考え方があるからこそ面白い、違うことに価値がある、異なる考え方がまじわる中から新しい発見や感動が生まれる、そんな学びを体験してほしいと思っていたからです。

ときとして、不本意な「自分」を演じていなければならない普段の学校生活の中では、今回のセミナーのように、ありのままの自分で意見を言うことは、もしかしたら、ちょっと難しいことかもしれません。でも、学校でも、社会でも、そういうことができる関係がなければ、人は豊かになれないんじゃないかと思うのです。

誰もが、ありのままの自分で生きられること、人との関わり合いの中から、自分でも気づかなかったような力が引き出され、新しい何かが生みだされること。それが、ぼくらが目指す「多文化共生」の社会の目標であり、いちばんの面白さだと思うのです。

きのしたよしひと

木下理仁（多文化コミュニティ教育支援室 国際理解教育専門員）

白っぽい冬の陽ざしが差し込む大学の教室に全国からの高校生が集まっている様子を興味深く拝見しました。

みんなそれぞれ個性的で、セミナー最終日だからでしょうか、落ち着いています。きょうの課題は4つのグループに分かれてそれぞれのテーマによるディスカッションをすることです。

私は大学生といっしょに「多文化共生」について考えるグループに入りました。

高校生たちの自由な議論の邪魔をしてはいけないと、関心をもっていない風を装って聞き耳をたてました。

話がなかなか自己の体験に根ざした具体的な話になっていきません。

大学生が心配そうな表情になり「ねえ、話がなんだかきれいすぎて我慢できないんだけど」ととうとう割ってはいりました。

私も「もしどうしても我慢ならない人がいたら、どうする？」というようなことを聞きました。

ここからがこの高校生たちのすごいところ。一気に話が具体的になり、我慢する・「やめて」と言う・なぜそんなことをするのか聞いてみるなど、いろいろな対応が出てきました。それぞれ「へえっ」という顔で聞き、生き生きとした意見交換が始まりました。

頭で考えていた多文化共生は実は身近にあり、みんなが同じように感じたり考えたりするのではないということに実感を持って気づいたのです。

実社会ではそこから逃げることはできません。考え続けていかなければ。

発表のために作られた模造紙には、それまでのディスカッションの紆余曲折の過程が書かれ、最後は大きなクエスチョンマークが書いてありました。私たちはそのときどうするのか。答えはありません。でも考え続けていかなければ、できることをしなければというメッセージは力強いもので、ワークショップの担当者から高い評価をもらいました。自分の心で感じ取り、考える高校生たち。私にとっても有意義な一日でした。ありがとう。

かわきた ゆうこ

**河北祐子（多文化コミュニティ教育支援室 学習支援専門員）**

この3日間を通して、私自身が毎日発見の連続だったように思います。高校生といっても、やはりその中で一人一人の視点があって、自分自身が思い込んでいた「高校生像」がいかに偏ったものだったかを痛感させられました。

また、この短い3日間の中で、高校生一人一人がそれぞれのペース、それぞれの形で変化していくのをはっきり見てとれたことが、私にとって一番興味深いことでした。いろいろな人と関わることで、他人を知り、他人を通してまた自分を知る、ということがこの3日間何度も繰り返され、その中で自分というものが少しずつ表に出てきたのではないかと思います。

もう一つ、このセミナーを通して、大学生と高校生が関わることで生まれる様々な化学反応を目の当たりにしました。支援室では、これまで高校生を対象にした国際理解教育の実践を行ったことはありませんが、そういったことから、来年度はぜひ高校生を対象に実践ができればよいと思っています。

おかざき ともこ

**岡崎智子（多文化コミュニティ教育支援室スタッフ）**

「ケンカをしたからと言って、それは相手と自分との考え方が食い違っているだけであって、相手のことを嫌いというわけではない。むしろ相手のことが好きだからこそ、我慢せずに自分の感情や考えを素直にぶつけられる」

「ケンカをすることで、相手のことを更に知り、理解することができる」

私は、人とケンカをするのがとにかく嫌いでした。争いから生まれるものは何もない、いつも笑顔で楽しく過ごせることが一番、と思っていたので、人とぶつかることがあるたびに落ち込んでいました。ですが、国際理解セミナーを経て、考え方が少し変わりました。誰かと意見が対立することがあっても、それは相手を理解するためのチャンス、と思えるようになりました。セミナーの開かれた3日間は、全国から集まった高校生の様々な考えに触れ、私自身にとっても学ぶことが多々ある3日間でした。

月日が過ぎるごとに記憶は薄れていきがちですが、高校生の皆さんには、それぞれがセミナーで得た知識や感じた思いを忘れないで、更に勉強を続ける、ボランティアや留学をするなど、それぞれのやり方で行動に移して行ってほしいと思います。また、それを自分の中に留めておくだけでなく、他の人へも発信してほしいと思います。

私も皆さんとの3日間を忘れずに、一人ひとりが対等でいられる多文化“共生”社会を目指して、私たちの身近で日本を支えている外国人住民の存在や、ボランティア活動の楽しさを少しでも多くの人に伝えていきたいと思います。これからもお互い頑張ってください！

わださらさ  
和田更沙（多文化コミュニティ教育支援室スタッフ）

# 編集後記

任意参加の報告書制作でしたが、メンバーに参加できて  
本当に良かったです。皆とも更にお互いになれたいと思います。

下、お名前を自分の中に入れてお返し  
まじえ

最初(参加者)もリ(は)の(か)に報告書制作でしたが、  
・ 本チームたぶりのペースで、おかしやみかんを食べて楽しめたです♡  
またみんなで話していいです。めい。

編集に参加して、このセミナーを100%楽しめました。これからこのセミナーが長く続くといいですね。

編集に参加して初めに迎えたが……、微妙でしたけど、楽しかったです。お昼もおいしく、おかしやみかんも  
たくさん食べられてよかったです。また、このセミナーに参加できることを願っています。

HP上で見る人が「おもしろい」と思ってくれている写真はSNSでシェアした、セミナー終了後も忙しか  
らなければ、皆で話し合いながら進めていくのが勉強になりました。

この報告書にすれば、見るとに面白く感じてもらえる。最後に面談の準備も  
楽々とした。楽しかった。お名前を自分の中に入れてお返し

みんなに会えて幸せだわあ！また会おう!!! Fさん



多文化コミュニティ教育支援室で編集会議

東京外国語大学オープンアカデミー

グローバル  
高校生のための国際理解セミナー 報告書

2008年 3月1日発行

編集委員 秋山 未希  
伊藤万利恵  
小島 明  
下田 宣代  
須藤 智子  
野本奈津美  
平田 優衣  
松島 周子

企 画 東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター(多文化コミュニティ教育支援室)  
〒183-8534  
東京都府中市朝日町 3-11-1  
TEL 042-330-5428  
FAX 042-330-5456  
URL [http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer\\_mclsc/ja/](http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer_mclsc/ja/)  
メール t-shien@tufc.ac.jp